

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

2025年度 授業内容(シラバス)

コミック・アート学科 美術・工芸コース 専門教育科目

科目名	教員名	授業形態	年次	ページ
美術・工芸論	加藤 義夫・大原 千尋	講義	1	1
素描画演習	森 慎司	演習	1	3
素描画演習	森 慎司	演習	1	5
造形演習	吉田 真紀子・池田 高広	演習	1	7
写真演習	菅原 広司	演習	1	9
写真演習	東陰地 正喜	演習	1	11
写真演習	藤原 純子	演習	1	13
彩色描画演習	森 慎司	演習	1	15
木炭画	森 慎司	演習	1	17
表現演習	中川 健・森村 誠	演習	1	19
コンピュータ演習	東陰地 正喜	演習	1	21
版画技法Ⅰ	池田 高広	演習	1	23
版画技法Ⅱ	吉田 真紀子	演習	1	25
メタルクラフト演習	加藤 涼子	演習	1	27
彫金演習	桜井 智裕	演習	1	29
メタルワーク演習	八木 牧子	演習	1	31
陶表現	山村 幸則	演習	1	33
陶芸素材演習	大原 千尋	演習	1	35
デッサン	森 慎司	実習	1	37
デッサン	八田 香織	実習	1	39
美術基礎実習	本庄 剛・池田 高広	実習	1	41
美術基礎実習	森 慎司・大船 光洋	実習	1	43
工芸基礎実習	秋永 邦洋・加藤 涼子	実習	1	45
工芸基礎実習	秋永 邦洋・桜井 智裕	実習	1	47
専門基礎実習Ⅰ	森 慎司	実習	1	49
専門基礎実習Ⅰ	吉田 真紀子	実習	1	51
専門基礎実習Ⅰ	加藤 涼子	実習	1	53
専門基礎実習Ⅰ	秋永 邦洋	実習	1	55
専門基礎実習Ⅱ	森 慎司	実習	1	57
専門基礎実習Ⅱ	池田 高広	実習	1	59
専門基礎実習Ⅱ	加藤 涼子	実習	1	61
専門基礎実習Ⅱ	大原 千尋	実習	1	63
コミュニケーション	原田 昌幸	演習	2	65

科目名	教員名	授業形態	年次	ページ
現代美術演習	原田 昌幸	演習	2	67
ガラス工芸	梅本 幸江	演習	2	69
モデル制作	加藤 涼子	演習	2	71
材料演習	原田 昌幸	演習	2	73
テンペラ技法演習	森 慎司	演習	2	75
映像表現	東陰地 正喜	演習	2	77
メディア演習	上田 佳奈	演習	2	79
メタルアート演習	加藤 涼子	演習	2	81
マテリアル演習	加藤 涼子	演習	2	83
クラフトデザイン	秋永 邦洋	演習	2	85
装飾表現	秋永 邦洋	演習	2	87
専門実習Ⅰ	森村 誠	実習	2	89
専門実習Ⅰ	吉田 真紀子	実習	2	91
専門実習Ⅰ	加藤 涼子	実習	2	93
専門実習Ⅰ	山村 幸則	実習	2	95
専門実習Ⅱ	本庄 剛	実習	2	97
専門実習Ⅱ	池田 高広	実習	2	99
専門実習Ⅱ	八木 牧子	実習	2	101
専門実習Ⅱ	山村 幸則	実習	2	103
専門実習Ⅲ	浜本 隆司	実習	2	105
専門実習Ⅲ	吉田 真紀子	実習	2	107
専門実習Ⅲ	桜井 智裕	実習	2	109
専門実習Ⅲ	大原 千尋	実習	2	111
専門実習Ⅳ	浜本 隆司	実習	2	113
専門実習Ⅳ	吉田 真紀子	実習	2	115
専門実習Ⅳ	桜井 智裕	実習	2	117
専門実習Ⅳ	大原 千尋	実習	2	119
専門実習Ⅴ	八田 香織	実習	2	121
専門実習Ⅴ	吉田 真紀子	実習	2	123
専門実習Ⅴ	桜井 智裕	実習	2	125
専門実習Ⅴ	大原 千尋	実習	2	127
専門実習Ⅵ	八田 香織	実習	2	129
専門実習Ⅵ	大船 光洋	実習	2	131
専門実習Ⅵ	加藤 涼子	実習	2	133
専門実習Ⅵ	秋永 邦洋	実習	2	135
卒業制作Ⅰ	森 慎司	実習	2	137
卒業制作Ⅰ	池田 高広	実習	2	139
卒業制作Ⅰ	八木 牧子	実習	2	141
卒業制作Ⅰ	秋永 邦洋	実習	2	143
卒業制作Ⅱ	八田 香織	実習	2	145

科目名	教員名	授業形態	年次	ページ
卒業制作Ⅱ	吉田 真紀子	実習	2	147
卒業制作Ⅱ	八木 牧子	実習	2	149
卒業制作Ⅱ	大原 千尋	実習	2	151

科目名	美術・工芸論			教員名	加藤 義夫・大原 千尋		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	2時限	形態	講義
コース	美術・工芸、オープン科目			年次	1	履修コード	1203

授業目的と到達目標

【美術論】美術の歴史を知り、その価値観の変遷を学び、自身の作品に生かすことを目的とします。自らのオリジナルな価値観の創造を生み出すことを到達点とします。【工芸論】工芸の歴史を知り、工芸とは何か？美術やデザインとの違いについて理解し、知識を広め、これからの自分の制作に生かせることを到達目標とします。

授業概要

【美術論】ものの見方や考え方を教えてくれるのが現代の美術です。これまで美術が育んできた美しいという従来の価値観をくつがえして、新しい価値観を生み出してきたのが現代美術の本質と言えます。美術史の流れを知り、新しい独自の価値観を考えてみましょう。【工芸論】制作者の視点から美術・工芸を考え、毎回のテーマに沿って映像や写真を交えて考察する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	（美術論：加藤）宝塚市立文化芸術センター館長・群馬青年ビエンナーレ審査委員長・大阪府文化スタッフ・あいちトリエンナーレ地域展開事業「アーツチャレンジ」選考委員&キュレーター・兵庫県立美術館評価委員・国立国際美術館評価委員などの経験に基づき指導します。（工芸論：大原）個展や数々のグループ展などの発表活動の経験に基づいて指導します。
受講姿勢、授業内のコメントなど	40%	
レポート課題	60%	
	%	
	%	
	%	

教科書

特になし。プリント資料を制作し使用。

参考書・参考文献

特になし。必要な場合はその都度指示。

参考 URL

科目名	美術・工芸論			教員名	加藤 義夫・大原 千尋		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	2時限	形態	講義
コース	美術・工芸、オープン科目			年次	1	履修コード	1203

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ガイダンス 授業の進め方、成績評価の方法と基準を説明します。
第2回	西洋美術の根幹をなすキリスト教精神について…西洋美術史を貫く精神と理論は、キリスト教の旧約聖書と新約聖書です。映画「天地創造」と「新約聖書」で解説します。
第3回	光学機器や写真の発明が、印象派を生み抽象絵画を生み出した。…17世紀のフェルメール、19世紀のモネ、20世紀のカンディンスキーの物語
第4回	レオナルド・ダ・ビンチの「モナリザ」とピカソの「泣く女」…客観的「理想美」VS 主観的「個性美」400年前の絵と100年前の絵の価値観の違いを学びます。
第5回	既製品のトイレをアートに変えた男の話：20世紀美術に大きな影響を与え、現代芸術の源泉とも言えるデュシャンを紹介します。
第6回	誰もが見る夢、その世界を描き視覚化した画家：20世紀美術に大きな影響を与えたシュールレアリスムの画家ダリを紹介します。
第7回	ギャラリーを知る：展覧会、アートフェア、オークションを紹介します。映画「モンパルナスのともろび」鑑賞しながら、ギャラリーと画家との関係性を探ります。
第8回	アートマーケットとコレクターについて：映画「ハープ&ドロシー」を鑑賞し、現代美術を学びます。
第9回	工芸の定義：工芸とは何か？について歴史や生活から学びます。
第10回	工芸・美術・デザインの対比：実際の作品例を元に工芸・美術・デザインの違いを考察する。
第11回	民芸について：日本の工芸の歴史における重要な運動「民芸」について紹介します。
第12回	暮らしと工芸：谷崎潤一郎の著書「陰翳礼讃」から引用して生活と工芸について考えましょう。
第13回	現代の作家作品紹介後、意見交換
第14回	工芸制作について：陶芸・金工・染織・木工・ガラスなどそれぞれの制作工程などの説明。
第15回	これからの工芸：現代の若い世代の工芸作品を鑑賞の後、レポートを書く。

受講上の注意
遅刻・早退・欠席の無いようにしましょう。授業中のおしゃべりと居眠りに注意しましょう。

特記事項

科目名	素描画演習			教員名	森 慎司		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	5112

授業目的と到達目標

造形表現の第一歩となる素描表現の可能性を広げ、アイデア・発想のための基本的な手法を修得する。

授業概要

色彩の造形分野における基本知識及び応用方法と素描の代表的各技法を演習する。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。
課題作品の評価	85%	
平常点、受講態度（課題の理解度、完成度、学習意欲など）	15%	
	%	
	%	
	%	

教科書

プリント配布

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	素描画演習			教員名	森 慎司		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	5112

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	色彩の基礎知識 色の三属性 三原色と色相環
第2回	補色対比と補色混色・補色重色 簡易チャートの制作
第3回	水彩絵の具による混色効果 簡易チャートの制作
第4回	課題1 色鉛筆による重色効果1
第5回	課題2 色鉛筆による重色効果2 模写
第6回	課題3 水彩ドローイング1 線の表現
第7回	課題4 水彩ドローイング2 面的表現
第8回	課題5 コンテドローイング1
第9回	課題6 コンテドローイング2 有色地
第10回	課題7 鉛筆細密描写1
第11回	課題8 鉛筆細密描写2
第12回	課題9 ペンドローイング1 線描1
第13回	課題10 ペンドローイング2 線描2
第14回	課題11 ペンドローイング3 点描1
第15回	課題12 ペンドローイング4 点描2

受講上の注意
毎回完結する課題が多いので欠席が重なると成績に影響することがあります。

特記事項
成績は制作過程、意欲、テーマの理解と作品の表現力、創造性、完成度等の総合評価である。

科目名	素描画演習			教員名	森 慎司		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	5319

授業目的と到達目標

造形表現の第一歩となる素描表現の可能性を広げ、アイデア・発想のための基本的な手法を修得する。

授業概要

色彩の造形分野における基本知識及び応用方法と素描の代表的各技法を演習する。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。
課題作品の評価	85%	
平常点、受講態度（課題の理解度、完成度、学習意欲など）	15%	
	%	
	%	
	%	

教科書

プリント配布

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	素描画演習			教員名	森 慎司		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	5319

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	色彩の基礎知識 色の三属性 三原色と色相環
第2回	補色対比と補色混色・補色重色 簡易チャートの制作
第3回	水彩絵の具による混色効果 簡易チャートの制作
第4回	課題1 色鉛筆による重色効果1
第5回	課題2 色鉛筆による重色効果2 模写
第6回	課題3 水彩ドーイング1 線の表現
第7回	課題4 水彩ドーイング2 面的表現
第8回	課題5 コンテドーイング1
第9回	課題6 コンテドーイング2 有色地
第10回	課題7 鉛筆細密描写1
第11回	課題8 鉛筆細密描写2
第12回	課題9 ペンドローイング1 線描1
第13回	課題10 ペンドローイング2 線描2
第14回	課題11 ペンドローイング3 点描1
第15回	課題12 ペンドローイング4 点描2

受講上の注意
毎回完結する課題が多いので欠席が重なると成績に影響することがあります。

特記事項
成績は制作過程、意欲、テーマの理解と作品の表現力、創造性、完成度等の総合評価である。

科目名	造形演習			教員名	吉田 真紀子・池田 高広		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	3-4 時限	形態	演習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	1325

授業目的と到達目標

造形化するうえで必要となる基本的な知識と実技による造形力の習得

授業概要

平面造形、立体造形に関する基本原理を理解し、展開していく。平面造形は毎週1課題の作品制作となり、立体造形は3～4週で1課題の制作となる。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	(吉田)作家としての作品制作の経験をもとに、造形表現の基礎となる色彩や構成に関する基礎知識の指導をします。(池田)美術作家としての経験をもとに作品制作の基本的な知識や技術・考え方の指導をします。
課題作品	90%	
出席や受講態度	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

なし

参考書・参考文献

プリント、参考資料など

参考 URL

科目名	造形演習			教員名	吉田 真紀子・池田 高広		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	3-4 時限	形態	演習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	1325

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	ガイダンス、「造形について」プリント						
第2回	点について、点描						
第3回	点の構成						
第4回	線について、線の表現						
第5回	線の構成						
第6回	面について、色彩について（プリント）						
第7回	色と表現						
第8回	面の構成						
第9回	色彩の構成						
第10回	立体造形1（構成） 針金等線的素材による立体制作のために天王寺動物園でモチーフとなる動物を観察、スケッチ（学外実習）						
第11回	立体造形1（構成） 針金等線的素材による立体制作			スケッチを元に構成を考える。針金など、各自が用意した線的な素材で制作。			
第12回	立体造形1（構成） 針金等線的素材による立体制作			針金など、各自が用意した線的な素材で制作。			
第13回	立体造形1（構成） 針金等線的素材による立体制作			針金など、各自が用意した線的な素材で制作。			
第14回	立体造形2（モデリング） 紙粘土によるシュールな立体制作			複数のモチーフを合体した状態でリアルに表現する。（アイデア、制作）			
第15回	立体造形2（モデリング） 紙粘土によるシュールな立体制作			複数のモチーフを合体した状態で作る。形を整え着色して完成。			

受講上の注意
受講に必要な用具、材料について 各自で持参するものに関しては、必要となる授業の前週までに知らせますので、忘れ物のないように注意すること。学外実習は月曜日が天王寺動物園休園のため他の日時に振り替えて行う（日時は授業内で連絡します）

特記事項

科目名	写真演習			教員名	菅原 広司		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	1326

授業目的と到達目標

写真撮影の楽しさを知る。一眼レフを使ったカメラの基本操作の理解。平面・立体作品撮影の基礎を学ぶ。デジタル処理の基礎を学ぶ。

授業概要

写真の原理から実際の撮影、アウトプットの多様性まで、総合的に体験する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	映像デザインの制作者による基礎から実践までの写真表現の演習。
受講姿勢	50%	
作品評価・理解度	50%	
	%	
	%	
	%	

教科書

特になし。プリント資料を制作し使用。

参考書・参考文献

なし。

参考 URL

科目名	写真演習			教員名	菅原 広司		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	1326

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	カメラと写真（講義）
第2回	ピンホール写真（カメラを作る）
第3回	ピンホール写真（撮影する・現像する）
第4回	カメラ機構とシャッター速度について（講義）
第5回	撮影（一眼レフを使用した写真撮影）
第6回	合評・被写界深度について（講義）
第7回	構図とレンズの特性（講義）
第8回	撮影（一眼レフを使用した写真撮影）
第9回	合評・デジタル写真について（講義）
第10回	撮影とレタッチ
第11回	組み作品「音を見る」
第12回	組み作品「音を見る」
第13回	合評・ポートフォリオ作成について（講義）
第14回	作品撮影とポートフォリオ（作品撮影の方法）
第15回	ポートフォリオ作成

受講上の注意
ステップアップ式に積み上げる授業内容なので、遅刻・欠席がないように注意すること。

特記事項
一眼レフカメラは学校の備品を使用。各自のカメラを持参してもよいが一眼レフに限る。

科目名	写真演習			教員名	東陰地 正喜		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸、オープン科目			年次	1	履修コード	3127

授業目的と到達目標

写真撮影の楽しさを知る。一眼レフを使ったカメラの基本操作の理解。平面・立体作品撮影の基礎を学ぶ。デジタル処理の基礎を学ぶ。

授業概要

写真の原理から実際の撮影、アウトプットの多様性まで、総合的に体験する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	映像デザインの制作者による基礎から実践までの写真表現の演習。
受講姿勢	50%	
作品評価・理解度	50%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	写真演習			教員名	東陰地 正喜		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸、オープン科目			年次	1	履修コード	3127

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	カメラと写真（講義）
第2回	ピンホール写真（カメラを作る）
第3回	ピンホール写真（撮影する・現像する）
第4回	カメラ機構とシャッター速度について（講義）
第5回	撮影（一眼レフを使用した写真撮影）
第6回	合評・被写界深度について（講義）
第7回	構図とレンズの特性（講義）
第8回	撮影（一眼レフを使用した写真撮影）
第9回	合評・デジタル写真について（講義）
第10回	撮影とレタッチ
第11回	組み作品「音を見る」
第12回	組み作品「音を見る」
第13回	合評・ポートフォリオ作成について（講義）
第14回	作品撮影とポートフォリオ（作品撮影の方法）
第15回	ポートフォリオ作成

受講上の注意
ステップアップ式に積み上げる授業内容なので、遅刻・欠席がないように注意すること。

特記事項
一眼レフカメラは学校の備品を使用。各自のカメラを持参してもよいが一眼レフに限る。

科目名	写真演習			教員名	藤原 純子		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	2127

授業目的と到達目標

写真撮影の楽しさを知る。一眼レフを使ったカメラの基本操作の理解。平面作品撮影の基礎を学ぶ。デジタル処理の基礎を学ぶ。

授業概要

写真の原理から実際の撮影、アウトプットの多様性まで、総合的に体験する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	写真デザインの制作者による基礎から実践までの写真表現の演習。一眼レフカメラは学校の備品を使用。各自のカメラを持参してもよいが一眼レフに限る。
受講姿勢	50%	
作品評価・理解度	50%	
	%	
	%	
	%	

教科書

特になし。プリント資料を制作し使用。

参考書・参考文献

なし。

参考 URL

科目名	写真演習			教員名	藤原 純子		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	2127

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	カメラと写真（講義）
第2回	ピンホール写真（カメラを作る）
第3回	ピンホール写真（撮影する・現像する）
第4回	カメラ機構とシャッター速度について（講義）
第5回	撮影（一眼レフを使用した写真撮影）
第6回	合評・被写界深度について（講義）
第7回	構図とレンズの特性（講義）
第8回	撮影（一眼レフを使用した写真撮影）
第9回	合評・デジタル写真について（講義）
第10回	撮影とレタッチ
第11回	組み作品「音を見る」
第12回	組み作品「音を見る」
第13回	合評・ポートフォリオ作成について（講義）
第14回	作品撮影とポートフォリオ（作品撮影の方法）
第15回	ポートフォリオ作成

受講上の注意
ステップアップ式に積み上げる授業内容なので、遅刻・欠席がないように注意すること。

特記事項
一眼レフカメラは学校の備品を使用。各自のカメラを持参してもよいが一眼に限る。

科目名	彩色描画演習			教員名	森 慎司		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	1	履修コード	4121

授業目的と到達目標

色材の使い方を知ることと絵画制作の手順の学習を通して水溶性絵の具の効果を知る。

授業概要

テーマごとの課題制作を通して、水彩えのぐ（透明、不透明）、パステル、色鉛筆、樹脂系えのぐ（アクリル）などの教材を習得する。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。
課題の制作と作品提出	85%	
平素の受講姿勢と学習意欲	15%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	彩色描画演習			教員名	森 慎司		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	1	履修コード	4121

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	課題1	静物画1	色鉛筆				
第2回	課題1	静物画1	色鉛筆				
第3回	課題2	静物画2	透明水彩				
第4回	課題2	静物画2	透明水彩				
第5回	課題3	静物画3（花）	透明水彩				
第6回	課題3	静物画3（花）	透明水彩				
第7回	課題3	静物画3（花）	透明水彩				
第8回	課題4	静物画4	透明水彩				
第9回	課題4	静物画4	透明水彩				
第10回	課題4	静物画4	透明水彩				
第11回	課題4	静物画4	透明水彩				
第12回	課題5	自画像1	色鉛筆				
第13回	課題5	自画像1	色鉛筆				
第14回	課題5	自画像2	アクリルガッシュ				
第15回	課題5	自画像2	アクリルガッシュ				

受講上の注意
汚れても良い服装などに留意すること

特記事項

科目名	木炭画			教員名	森 慎司		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	1	履修コード	5113

授業目的と到達目標

主に木炭の表現力を知るとともに、絵画表現の基本となる形態と量感表現を習得する。

授業概要

テーマごとの課題制作。モチーフを写生しながら、形態・プロポーションをとらえる。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。
課題の制作と作品の提出	85%	
平素の受講姿勢と学習意欲	15%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	木炭画			教員名	森 慎司		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	1	履修コード	5113

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	課題1 グレースケールの制作
第2回	課題2 石膏像1
第3回	課題2 石膏像1
第4回	課題3 自画像
第5回	課題3 自画像
第6回	課題3 自画像
第7回	課題4 石膏像2
第8回	課題4 石膏像2
第9回	課題4 石膏像2
第10回	課題5 静物
第11回	課題5 静物
第12回	課題6 人物 ポーズ1
第13回	課題6 人物 ポーズ1
第14回	課題7 人物 ポーズ2
第15回	課題7 人物 ポーズ2

受講上の注意
木炭を用いるので汚れても構わない服装に留意すること

特記事項

科目名	表現演習			教員名	中川 健・森村 誠		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	3-4 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	1	履修コード	1102

授業目的と到達目標

作品制作の為の表現力／技法を習得し、独自に展開させることにより制作の為の表現力／技法の幅を広げることが到達目標とします。

授業概要

技法／表現方法などを通じて、作品制作を考える為のポイントを感じてもらう。また、合評により各々の考え方を理解する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	(森村) 表現演習に関して、美術作家の経験を元に指導します。(中川) 現役の美術作家としての表現の経験(主に絵画)を活かし、技術力や画材の知識、物事の捉え方などを指導します。
作品評価	80%	
取組み・授業態度	20%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	表現演習			教員名	中川 健・森村 誠		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	3-4 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	1	履修コード	1102

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	ガイダンス（中川・森村）						
第2回	絵画の平面性立体的なものに絵画を展開してみる。絵画とは紙やキャンバスなど平面的で厚みのない基盤に描くものという既成観念からの脱却。合評（中川）						
第3回	絵画の平面性立体的なものに絵画を展開してみる。絵画とは紙やキャンバスなど平面的で厚みのない基盤に描くものという既成観念からの脱却。合評（中川）						
第4回	ワークショップ - マスケットインク - マスケットインクを使った作品作りの体験。合評（中川）						
第5回	絵画のトリミング”ものを観る”時の視点を意識し、自分が持つ美の独自性を考える。風景をリサーチしてトリミングのシュミレーションを行う。（中川）						
第6回	絵画のトリミング”ものを観る”時の視点を意識し、自分が持つ美の独自性を考える。シュミレーションを元に矩形の縦横比をそれぞれ考え、オリジナルのパネルを作る。（中川）						
第7回	絵画のトリミング”ものを観る”時の視点を意識し、自分が持つ美の独自性を考える。制作（中川）						
第8回	制作、合評（中川）						
第9回	パロディとパクリについて：パロディとパクリの違いについて説明し、過去の名画を引用したパロディ平面作品の制作。（森村）						
第10回	パロディとパクリについて：パロディとパクリの違いについて説明し、過去の名画を引用したパロディ平面作品の制作。合評。（森村）						
第11回	新しい価値を考える訓練：日常品を観察し、本来の使用用途／価値とは別の新しい意味を見つけだす訓練。「今まで知っていると思い込んでいたモノは一体何だったのか？」と考える。（森村）						
第12回	新しい価値を考える訓練：日常品を観察し、本来の使用用途／価値とは別の新しい意味を見つけだす訓練。「今まで知っていると思い込んでいたモノは一体何だったのか？」と考える。（森村）						
第13回	新しい価値を考える訓練：日常品を観察し、本来の使用用途／価値とは別の新しい意味を見つけだす訓練。「今まで知っていると思い込んでいたモノは一体何だったのか？」と考える。合評（森村）						
第14回	「考え方」を考える訓練：抽象的な言葉に対して、どのように考えて制作をするかの訓練。「何気なく使っている言葉は一体何だったのか？」と考える。（森村）						
第15回	「考え方」を考える訓練：抽象的な言葉に対して、どのように考えて制作をするかの訓練。「何気なく使っている言葉は一体何だったのか？」と考える。合評（森村）						

受講上の注意

特記事項

科目名	コンピュータ演習			教員名	東陰地 正喜		
期区分	後期	曜日	土曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(版画)、美術・工芸(陶芸)			年次	1	履修コード	6121

授業目的と到達目標

Mac（またはPC）を使って、Adobe Photoshop（Ps）や Illustrator（Ai）の基本的な使い方を学びます。フライヤーやポストカード、ポートフォリオが作成できるようになるのが目標です。

授業概要

コンピュータの基本操作からはじめて、画像の加工や合成、グラフィックの作成など、小課題を重ねながら、少しずつステップアップしていきます。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	映像デザイン制作者によるコンピュータを使った実践的なデザインワークの入門。
出席	30%	
授業に取り組む姿勢	20%	
課題の評価	50%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	コンピュータ演習			教員名	東陰地 正喜		
期区分	後期	曜日	土曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(版画)、美術・工芸(陶芸)			年次	1	履修コード	6121

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	コンピュータ概論（OS 基本操作、web ブラウザ、文字入力）／Ps と Ai の体験
第2回	Ps（ビットマップ）と Ai（ベクトル）の画像の違い／解像度について／撮影画像の取り込みとスキヤニング
第3回	Ps 基礎編（トリミング、色補正とフィルタ、レタッチ）／色について
第4回	Ps 基礎編（選択範囲の作り方）
第5回	Ps 基礎編（レイヤーについて）／画像の合成-1
第6回	Ps 基礎編（文字について、描画モードとレイヤー効果）／モノクロ画像・線画の彩色
第7回	Ai 基礎編（プリミティブ図形と直線の表現）／地図の作成
第8回	Ai 基礎編（ベジェ曲線の編集-1）／自由な形
第9回	Ai 基礎編（文字と基本のレイアウト）／名刺の作成
第10回	Ai 基礎編（ベジェ曲線の編集-2）／ロゴトレースとイラスト
第11回	Ps 応用編（パスとチャンネルの利用、マスクについて）／画像の合成-2
第12回	Ai 応用編（複雑な文字組み、グラフや表の作成）
第13回	総合課題「ポストカードの作成」／オフセット印刷の基礎知識
第14回	総合課題「ポストカードの作成」
第15回	総合課題「ポートフォリオの作成」

受講上の注意

特記事項

科目名	版画技法 I			教員名	池田 高広		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(版画)			年次	1	履修コード	2331

授業目的と到達目標

平版（リトグラフ）による表現方法の習得。版での思考の幅を広げる。

授業概要

3 種類の平版での作品制作を体験する。それぞれの版の特徴を理解し、自身の作品制作を楽しむ。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	美術家として個展、版画展などの実務経験を基に版画を「深く柔軟に思考・制作」する姿勢を尊重し指導します。
技能習得と受講姿勢	30%	
提出作品による評価	70%	
	%	
	%	
	%	

教科書

なし。必要に応じてプリント資料配布

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	版画技法 I			教員名	池田 高広		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(版画)			年次	1	履修コード	2331

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	ガイダンス リトグラフ 課題説明						
第2回	リトグラフ（ウォーターレス）2版2色刷り						
第3回	リトグラフ（ウォーターレス）下絵原稿完成						
第4回	リトグラフ（ウォーターレス）アルミ版に描画→シリコン塗布						
第5回	リトグラフ（ウォーターレス）刷り①						
第6回	リトグラフ（ウォーターレス）アルミ版に描画→シリコン塗布						
第7回	リトグラフ（ウォーターレス）刷り②						
第8回	リトグラフ（PS版）課題説明→フロッタージュ→コラージュ						
第9回	リトグラフ（PS版）下絵原稿完成→ポジ原稿作成						
第10回	リトグラフ（PS版）製版						
第11回	リトグラフ（PS版）刷り						
第12回	リトグラフ（PS版）刷り						
第13回	平版 モノタイプ						
第14回	平版 モノタイプ						
第15回	エディションナンバー、サインの記入 作品提出 合評						

受講上の注意
毎回、説明、講義から始まるので、遅刻、欠席のないように。

特記事項

科目名	版画技法Ⅱ			教員名	吉田 真紀子		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(版画)			年次	1	履修コード	6316

授業目的と到達目標

凸版技法による表現方法の習得。凸版の技法を身につけ自らのイメージを作品にすることを目的とする。

授業概要

凸版技法による作品制作。消しゴム、木（板目版材、木口版材）、リノリウム、紙、版にする材料を変えてそれぞれの版材の特性を生かした制作を行う。互いの作品を鑑賞し、意見を述べ合う。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	版画作家としての経験をもとに、版を使うことによってできる表現方法についての指導をします。
作品と技法の理解、習得度を総合的に評価	90%	
出席、課題取り組みなどの受講姿勢	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

なし

参考書・参考文献

プリント、参考資料など

参考 URL

科目名	版画技法Ⅱ			教員名	吉田 真紀子		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(版画)			年次	1	履修コード	6316

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	凸版の技法で制作を行う。消しゴムはんこ・・・消しゴムをカッターナイフ、彫刻刀などで加工し、スタンプを作る。自分のマークを作る。製販・印刷
第2回	単純な形を連続してスタンプすることによって大きな作品に展開させる。製販・印刷
第3回	リノカット（一版単色刷り）リノリウム版を彫刻刀で加工して版を作る。彫刻刀独特のタッチと単純化された明暗のバランスを意識して制作する。製販
第4回	リノカット 製販・印刷
第5回	板目木版（一版多色刷り）板目の版木を彫刻刀で加工して版を作る。一枚の版で彫りと刷りを繰り返して作品を作り上げる。製販
第6回	板目木版（一版多色刷り） 製販・印刷
第7回	板目木版（一版多色刷り） 製販・印刷
第8回	板目木版（一版多色刷り） 製販・印刷
第9回	板目木版（一版多色刷り） 製販・印刷
第10回	木口木版（一版墨刷り） 木口の版木を用いビュランで時間をかけて彫刻し、版を作る。
第11回	木口木版（一版墨刷り） 製販・印刷（試し刷り）
第12回	木口木版（一版墨刷り） 製販・印刷
第13回	紙版画 コラグラフ・・・台紙に色々な素材（粗布、紙、ヒモなど）を貼り付けたり、ボンドやジェッソなどでマチエール（表面の凹凸）をつけて版を作る。製販
第14回	コラグラフ 製販・印刷
第15回	その他の紙版画・・・紙材は自由な形に切ったり、表面に凹凸を作ることが容易にできる素材なのでその特性を生かし、自由な発想で版作りを行う。

受講上の注意
自分の作品制作という意識を持って積極的に取り組むこと。

特記事項

科目名	メタルクラフト演習			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	1	履修コード	5123

授業目的と到達目標

金属工芸の基礎知識や伝統技法、図面に従った制作の重要性を学習します。計画書に沿った手順で作業を進めていく計画性を身に付けます。

授業概要

図面の書き方や図面上での表現方法を学習します。伝統工芸である木目金を地金から作る工程を学び基礎技術の習得と応用表現を展開します。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。
完成度・デザイン	30%	
作品提出	20%	
授業態度	10%	
出席率	40%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

プリント配布

参考 URL

科目名	メタルクラフト演習			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	1	履修コード	5123

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	素材の説明・加工方法・作業手順の説明・陽極酸化処理加工による色見本の制作
第2回	課題①板材を使ったペンダント アイディアスケッチ・デザイン・図面作成・作業計画
第3回	課題①板材を使ったペンダント 切断 下処理 着色
第4回	課題①板材を使ったペンダント 切断 削る 研磨
第5回	課題①板材を使ったペンダント 研磨 仕上げ 組み立て
第6回	素材の説明・加工方法・作業手順の説明・伝統工芸技法による地金作り練習
第7回	課題②地金作り練習～伝統工芸技法で作る地金を使った指輪作り 図面作成・作業計画
第8回	課題②自作の地金を使った指輪
第9回	課題②自作の地金を使った指輪 仕上げ
第10回	課題③伝統工芸技法による地金を使った装身具作り デザイン・図面作成・作業計画
第11回	課題③伝統工芸技法による地金を使った装身具作り
第12回	課題③伝統工芸技法による地金を使った装身具作り
第13回	課題③伝統工芸技法による地金を使った装身具作り
第14回	課題③伝統工芸技法による地金を使った装身具作り
第15回	課題③伝統工芸技法による地金を使った装身具作り仕上げ 合評

受講上の注意
作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用。

特記事項

科目名	彫金演習			教員名	桜井 智裕		
期区分	後期	曜日	土曜日	時限	3-4 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)、オープン科目			年次	1	履修コード	6314

授業目的と到達目標

金属を加工して作品を作る「金属工芸」の基礎的な技法の経験と習得を目指しています。同時に作品制作におけるアイデア、発想の煮詰め方を学び、より表現の幅を広げることも目指しています。

授業概要

こちらが提示する「課題」に沿って作品のアイデアを考えてもらい、一定期間内に作品を制作、完成させてもらい、「合評」という形で提出してもらいます。そして、また次の課題へ進むと言う流れになります。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	造形作家としての創作活動の経験を生かし、学生たちに作品制作を通して「モノ作り」の基礎や多種多様にわたる柔軟な発想力を身につけてもらえるよう指導して行きたいと思います。
作品の評価点（完成度やアイデアの工夫など）	95%	
平常点（作品製作時の取り組み姿勢など）	5%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

プリント配布

参考 URL

科目名	彫金演習			教員名	桜井 智裕		
期区分	後期	曜日	土曜日	時限	3-4 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)、オープン科目			年次	1	履修コード	6314

授業計画（各回予定）			
授業内容			
第1回	ブックエンド 真鍮板を使ったブックエンド制作（腐食） 授業ガイダンス、課題説明、アイデアチェック、デザインが決まった人から作品制作		
第2回	作品制作 図案のコピーを地金に貼って糸鋸で切る マスキングをして腐食		
第3回	作品制作 はんだ付けや曲げ加工により形を組み上げる		
第4回	作品制作 磨いて仕上げる 着色する、合評、次の課題説明		
第5回	糸鋸刃ケース 真鍮のパイプを使った鋸刃入れ制作 アイデアチェック、作品制作		
第6回	作品制作 筒、ジョイント部分制作		
第7回	作品制作 ロウ付け、仕上げ 合評、次の課題説明		
第8回	小物入れ制作 銅版と真鍮パイプを使った小物入れ制作（打ち出し） アイデアチェック、本体制作		
第9回	本体（入れ物部分）制作 真鍮パイプで本体をつくる		
第10回	本体（入れ物部分）制作 ロウ付け、ハンダ付け		
第11回	本体（入れ物部分）制作 本体を磨く		
第12回	彫りタガネを制作 彫るための専用工具を作る		
第13回	彫りの練習課題 松ヤニに留め、彫っていく		
第14回	装飾部分を制作 銅板を彫る		
第15回	本体と装飾部品を組む 着色、本体に接着 合評		

受講上の注意
必ず作業服に着替えて実習を受けてください。また、靴も動きやすく素足が露出していないもの、（ハイヒールやサンダル、ぞうりは不可です） 実習時に毎回持参してくるもの：雑巾又はタオル、筆記用具、作業用の服、工具、スケッチブック又はクロッキー帳（A4程度の大きさが有れば良いです）

特記事項

科目名	メタルワーク演習			教員名	八木 牧子		
期区分	後期	曜日	土曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)、オープン科目			年次	1	履修コード	6127

授業目的と到達目標

ジュエリー制作の基本的な知識と技術を修得し、もの作りへの興味を深め、制作意欲や技術を向上させ、今後への作品づくりに発展させることを目標としています。

授業概要

ジュエリー制作に必要な 彫金の基礎的技術(金属を切る、削る、付ける、磨くなど)を用いて、数種類のジュエリーを制作します。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	ジュエリー作家の元で修行後、読売新聞社の彫金教室や大阪市立クラフトパークなどで Metal Work の技術を指導する現役 彫金作家が指導します。
作品の完成度	45%	
課題への取り組み態度	25%	
理解度	20%	
出席状況	10%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

参考 URL	
https://youtu.be/OF2ulbq6Zi8	URL)https://youtu.be/FqsGr0ODHcE

科目名	メタルワーク演習			教員名	八木 牧子		
期区分	後期	曜日	土曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)、オープン科目			年次	1	履修コード	6127

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	シルバーリングを作る・デザインを考える
第2回	リング制作・・・・・・・・模様タガネ作り
第3回	リング制作・・・・・・・・仕上げ 作品提出
第4回	シルバーブレスレット作る
第5回	ブレスレット制作・・・・デザインを考える
第6回	ブレスレット制作・・・・平戸細工の技法を使う
第7回	ブレスレット制作・・・・ロウ付けの練習・金具作り
第8回	ブレスレット制作・・・・チェーンの研磨方法 作品提出
第9回	石付きシルバーリングを作る
第10回	リング制作・・・・・・・・リングのデザインを考える
第11回	リング制作・・・・・・・・覆輪石留め技法の練習
第12回	リング制作・・・・・・・・銀地金作り（地金吹き）の練習
第13回	リング制作・・・・・・・・ロウ付けの練習
第14回	リング制作・・・・・・・・石留めの練習
第15回	リング制作・・・・・・・・リングの研磨方法 作品提出

受講上の注意
ジュエリー作りの基礎、石留めの基礎をしっかり学び2年生の授業に活用してもらいたいです。

特記事項

科目名	陶表現			教員名	山村 幸則		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(陶芸)、オープン科目			年次	1	履修コード	6403

授業目的と到達目標

この授業では陶芸の領域を俯瞰し、現代社会や日常生活の中に各々のリアリティーを見出し、潜在する個性や拘りを陶の表現と結びつけることを目的とする。それぞれの生まれ育った環境、国や地域、または特定の場所（仮定）の為に作品を提案、制作する。既成の領域や空間を飛び出し、サイトスペシフィック・アートの要素である場所の特性（環境、歴史、文化等）を陶表現に取り入れ、より独創的な自己表現に到達することを目標とする。

授業概要

専門学校を軸に外の世界にも目を向け、現代社会や日常生活からの気づき、発見などを採取、授業に参加する全員で共有する。特定の場の特性を読み取り、アイデアを紡ぎ出し、陶を素材に制作する。各々と全体のアイデアの発展を促す為、発表と意見交換を繰り返し、より良い制作の過程を見つけ陶と自己表現の可能性を探究する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	美術家として国内外で数多くの滞在制作、展覧会、プロジェクト、ワークショップ等に取り組んでいる経験を元に陶芸の技法と表現を指導します。
受講姿勢	50%	
課題評価	50%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	陶表現			教員名	山村 幸則		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(陶芸)、オープン科目			年次	1	履修コード	6403

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	イントロダクション：自分と作品、場所との関係性について 授業全 15 回で使用するスケッチブックを制作する（毎回の記述や描写を重ねてゆく） 既製品を独創的な1冊に制作する、または、各自選択した用紙を綴じ、創造的な1冊を制作する						
第2回	美章園から着想する作品の提案（第 15 回 合評にて作品提出、発表を行います） 美章園を歩く① フィールドワーク：五感を働かせながら 街中を歩き撮影、メモ、スケッチ、採集、記録する 教室にて各自の視点を整理する（アイディアスケッチ、習作） 全体での情報共有と意見交換						
第3回	美章園を歩く② フィールドワーク：五感を働かせながら 街中を歩き撮影、メモ、スケッチ、採集、記録する 教室にて各自の視点を整理する（アイディアスケッチ、習作） 全体での情報共有と意見交換						
第4回	美章園から着想する作品の提案（5～10通り）を考える 各々の提案の可能性を探り、方向性を見出す 全体で情報共有と意見交換 アイディアスケッチや習作などを用いながら発表する						
第5回	各々の提案、特定の作品設置場所（仮定）に合った制作方法を選択し、ある程度、表現の方向性を定める（手捻り、型成形、くり抜き、板づくり、轆轤成形、その他）						
第6回	各々の制作進行状況を確認し、意見交換 制作試行（基本構想の展開、テストピースの制作、異素材の実験等）						
第7回	各々の制作進行状況を確認し、意見交換 制作試行（基本構想の展開、テストピースの制作、異素材の実験等）						
第8回	中間発表 制作の進捗について全体共有 前半を振り返り、後半への課題を見出し、制作を進める						
第9回	各々の制作進行状況を確認し、制作を進める 素焼き 制作過程の記録						
第10回	各々の制作進行状況を確認し、制作を進める 本焼き 制作過程の記録						
第11回	各々の制作進行状況を確認し、制作を進める 素焼き 制作過程の記録						
第12回	各々の制作進行状況を確認し、制作を進める 本焼き 制作過程の記録						
第13回	焼成後の作品の仕上げ、補修 完成へ向けて作品の展示方法の検討と制作 美章園を歩く①②フィールドワークで見出したお気に入りの場所を訪れ、作品との関係性を確認						
第14回	作品と作品設置場所（仮定）の撮影と画像の加工編集 合評に向けての資料の制作（ポートフォリオ、全授業の記録） 展示用品、額装、その他の制作						
第15回	合評						

受講上の注意
遅刻欠席をしないこと。作業しやすい服装で受講すること。筆記用具、スケッチブックを持参のこと。

特記事項

科目名	陶芸素材演習			教員名	大原 千尋		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	1	履修コード	4122

授業目的と到達目標

土や化粧、釉薬など陶芸の材料について基礎的な知識を知り、実際にテストし自分の制作に活かせるようにする。

授業概要

土、化粧土、釉薬、それぞれの材料を調合してテストピースを作る。作ったテストピースをパネルに貼って保存する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	陶芸作家として個展や数々のグループ展などの出品の経験を元に指導します。
出席状況	80%	
課題提出状況	20%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

陶芸の釉薬ー理論と調製の実際	出) 理工学社	著) 大西政太郎
陶芸の伝統技法	出) 理工学社	著) 大西政太郎
やきものをつくる釉薬応用ノート	出) 双葉社	著) 津坂 和秀

参考 URL

科目名	陶芸素材演習			教員名	大原 千尋		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	1	履修コード	4122

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ガイダンス 授業の概要説明など テストピースの型を作る
第2回	土のテストピースを作る（土の調合）
第3回	土のテストピースの成形
第4回	施釉と焼成
第5回	化粧土用のテストピースと釉薬用のテストピースを作る（型を使って成形）
第6回	化粧土の説明と調合
第7回	化粧土の調合
第8回	施釉と焼成
第9回	釉薬の説明と調合
第10回	釉薬の調合
第11回	釉薬の調合
第12回	焼成
第13回	パネルの準備
第14回	テストピースのパネル貼り
第15回	合評

受講上の注意
遅刻、欠席は、著しい遅れを生じますので、気をつけてください。

特記事項

科目名	デッサン			教員名	森 慎司		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	4120

授業目的と到達目標

形の構造の理解を深めることで立体と空間を把握し、デッサン力を養うとともに写実的表現力を身につける。

授業概要

テーマに従った鉛筆による課題制作

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。
課題作品の提出	85%	
平素の受講態度と学習意欲	15%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	デッサン			教員名	森 慎司		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	4120

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ガイダンス 課題1 グレースケールをつくる
第2回	課題2 形のなりたち1 箱形を考える
第3回	課題3 形のなりたち2 楕円を描いてみる
第4回	課題4 形のなりたち3 円筒（円柱）のしくみ
第5回	課題5 形のなりたち4 球の構造を考える
第6回	課題6 形のなりたち5 円錐のなりたちを知り、りんごを描く
第7回	課題7 形のなりたち6 側円柱の考え方
第8回	課題8 形のなりたち7 遠近法を理解する
第9回	課題9 形の組み合わせ1 石こうの相貫体のしくみ
第10回	課題10 形の組み合わせ2 紙コップとつみ木から空間を考える
第11回	課題11 形の組み合わせ3 木槌と本
第12回	課題12 質感表現1 金属と布
第13回	課題13 質感表現2 ガラスと金属
第14回	課題14 質感表現3 金属と木と布
第15回	課題15 質感表現4 布とガラス

受講上の注意
毎回作品提出のため欠席が重なると評価が下がることがあります。

特記事項

科目名	デッサン			教員名	八田 香織		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	4326

授業目的と到達目標

鉛筆での表現。形態把握の力を養い、写实的表現における描画技術の習得を目的とする。

授業概要

テーマごとの課題制作。基本的に毎回 課題の制作。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	行動美術協会会員（審査員）、日本美術家連盟会員としての作家活動並びにカルチャースクールでの指導経験を元に授業を行います。
テーマごとの課題の制作と作品の提出	100%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	デッサン			教員名	八田 香織		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	4326

授業計画（各回予定）					
授業内容					
第 1 回	課題 1	鉛筆画	B 3 画用紙	グレースケールの描画	
第 2 回	課題 2	鉛筆画	B 3 画用紙	モチーフ	石膏幾何形態を描画する。
第 3 回	課題 3	鉛筆画	B 3 画用紙	モチーフ	石膏幾何形態を描画する。
第 4 回	課題 4	鉛筆画	B 3 画用紙	モチーフ	石膏幾何形態を描画する。
第 5 回	課題 5	鉛筆画	B 3 画用紙	モチーフ	花びんと片口を描画する。
第 6 回	課題 6	鉛筆画	B 3 画用紙	モチーフ	卵とエッグスタンドを描画する。
第 7 回	課題 7	鉛筆画	B 3 画用紙	モチーフ	軍手と移植ゴテを描画する。
第 8 回	課題 7	鉛筆画	B 3 画用紙	モチーフ	軍手と移植ゴテを描画する。
第 9 回	課題 8	鉛筆画	B 3 画用紙	モチーフ	松笠を描画する。
第 10 回	課題 8	鉛筆画	B 3 画用紙	モチーフ	松笠を描画する。
第 11 回	課題 8	鉛筆画	B 3 画用紙	モチーフ	松笠を描画する。
第 12 回	課題 9	5 色色鉛筆画	B 3 黒ケント紙	モチーフ	ガラスコップと紙風船を描画する。
第 13 回	課題 1 0	5 色色鉛筆画	B 3 画用紙	モチーフ	積み木と紙風船を描画する。
第 14 回	課題 1 1	鉛筆画	B 3 画用紙	イメージ（想像画）にて描画する。	
第 15 回	課題 1 2	模擬テスト			

受講上の注意
毎回作品制作と提出があるので、積極的に取り組むこと。

特記事項
成績は制作過程、意欲、テーマの理解と作品の表現力、創造性、完成度などで総合評価する。

科目名	美術基礎実習			教員名	本庄 剛・池田 高広		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	2126

授業目的と到達目標

絵画・版画の技術的な基礎知識と制作における考え方を知る。

授業概要

前半・絵画、後半・版画について実技指導を行う。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	(本庄)平成14年3月東京芸術大学大学院修了 在校時から現在に至るまで作家活動を継続。(池田) 美術家として個展、版画展などの実務経験を基 に版画を「深く柔軟に思考・制作」する姿勢を尊重 し指導します。
受講姿勢	10%	
作品評価・理解度	90%	
	%	
	%	
	%	

教科書

なし。必要に応じてプリント等を配布し使用する。

参考書・参考文献

なし。

参考 URL

科目名	美術基礎実習			教員名	本庄 剛・池田 高広		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	2126

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	ガイダンス 課題説明 教材の表現技法の研究、制作の計画						
第2回	絵画実習 課題1 静物画 作品F20号 下絵の制作						
第3回	課題1 静物画 作品F20号 描画技法（グリザイユ）にて制作する。						
第4回	課題1 静物画 作品F20号 描画技法（グリザイユ）にて制作する。						
第5回	課題1 静物画 作品F20号 下描き 彩色にて表現						
第6回	課題1 静物画 作品F20号 中描き 彩色にて表現						
第7回	課題1 静物画 作品F20号 上描き 彩色にて表現						
第8回	課題1 静物画 作品F20号 仕上げ 彩色にて表現 合評						
第9回	版画実習 凹版 アルミ版エッチング（線の粗密で表現する）アイデアスケッチ						
第10回	凹版 アルミ版エッチング 製版→刷り						
第11回	孔版 シルクスクリーン 2版2色刷り アイデアスケッチ						
第12回	孔版 シルクスクリーン 1版目製版→刷り→版の再生						
第13回	孔版 シルクスクリーン 2版目製版→刷り→版の再生						
第14回	平版 ウォーターレスリトグラフ アイデアスケッチ→描画→製版						
第15回	平版 ウォーターレスリトグラフ 刷り 合評						

受講上の注意
汚れてもよい服装・エプロンなど用意のこと。段階的に学習を行うので、遅刻・欠席が無いようにする。

特記事項

科目名	美術基礎実習			教員名	森 慎司・大船 光洋		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	2323

授業目的と到達目標

絵画・版画の技術的な基礎知識と制作における考え方を知る。

授業概要

前半・絵画、後半・版画について実技指導を行う。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	（森）主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。（大船）版画作家として、個展やグループ展、アートフェア等での作品発表の経験を基に、版での作品制作の楽しさを伝えます。
受講姿勢	10%	
作品評価・理解度	90%	
	%	
	%	
	%	

教科書

なし。必要に応じてプリント等を配布し使用する。

参考書・参考文献

なし。

参考 URL

科目名	美術基礎実習			教員名	森 慎司・大船 光洋		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	2323

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	ガイダンス 課題説明 教材の表現技法の研究、制作の計画						
第2回	絵画実習 課題1 静物画 作品F20号 下絵の制作						
第3回	課題1 静物画 作品F20号 描画技法（グリザイユ）にて制作する。						
第4回	課題1 静物画 作品F20号 描画技法（グリザイユ）にて制作する。						
第5回	課題1 静物画 作品F20号 下描き 彩色にて表現						
第6回	課題1 静物画 作品F20号 中描き 彩色にて表現						
第7回	課題1 静物画 作品F20号 上描き 彩色にて表現						
第8回	課題1 静物画 作品F20号 仕上げ 彩色にて表現 合評						
第9回	版画実習 凹版 アルミ版エッチング（線の粗密で表現する）アイデアスケッチ						
第10回	凹版 アルミ版エッチング 製版→刷り						
第11回	孔版 シルクスクリーン 2版2色刷り アイデアスケッチ						
第12回	孔版 シルクスクリーン 1版目製版→刷り→版の再生						
第13回	孔版 シルクスクリーン 2版目製版→刷り→版の再生						
第14回	平版 ウォーターレスリトグラフ アイデアスケッチ→描画→製版						
第15回	平版 ウォーターレスリトグラフ 刷り 合評						

受講上の注意
汚れてもよい服装・エプロンなど用意のこと。段階的に学習を行うので、遅刻・欠席が無いようにする。

特記事項

科目名	工芸基礎実習			教員名	加藤 涼子・秋永 邦洋		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	3115

授業目的と到達目標

【アクセサリー】基本的な金属加工技術を用いて金属の様々な表現方法を体験していきます。素材の特徴を理解し適した技法を用い、一連の工程を通して硬い金属を使って創造する物づくりの楽しさに触れて欲しい。【陶芸】基本的な成形方法と焼成プロセスを知り素材の特性を学ぶ。陶器づくりの、基本的な行程を体験する。素材の特性や技法と表現の関わりを理解する。自らの手で創作する事で、物づくりの楽しさを知る。

授業概要

【アクセサリー】7回の実習の中で、切断/削る/なます/溶かす/溶接/穴あけ/打刻/研磨など金属加工で必ず用いる技法を体験し課題作りに取り組む。【陶芸】7回の実習。玉作り/紐づくり/板作り/ろくろ成形、した作品に、下絵付けなどの装飾をおこなう。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	（加藤）ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。（秋永）陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。
完成度・デザイン	30%	
作品提出	20%	
授業態度	10%	
出席率	40%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

プリント配布

参考 URL

科目名	工芸基礎実習			教員名	加藤 涼子・秋永 邦洋		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	3115

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ガイダンス アクセサリーと陶芸 真鍮キーホルダー 硬い金属加工体験/刻印
第2回	銅箔レリーフと鉄筆作り 金属箔を使った柔らか金属加工体験/道具作り/削る/磨く
第3回	真鍮バングル 切る/なます/削る/当て金を使った曲げ加工/叩く/磨く
第4回	洋白ピンバッチ 切る/なます/鑿/溶接/削る/磨く
第5回	錫の菓子皿 溶かす/鋳造/切る/削る/磨く
第6回	真鍮小物入れ 切る/透かす/削る/なます/磨く
第7回	切る/叩く/曲げる/溶接/削る/磨く
第8回	講評会
第9回	土練りと玉作り 500gの土のかたまりから、茶碗を作る。(信楽土)
第10回	土練りと紐づくり 紐づくりで、サラダボールを作る。(直径15センチ/赤合わせ土)
第11回	土練りと板作り 前回のマグカップの仕上げ 「マイアトリエ」のプレート(150×300) (色化粧土で装飾)
第12回	電動ろくろを体験する。(ろくろ成形でぐい飲みを)
第13回	ろくろ仕上げと自由制作(紐づくり)
第14回	釉薬掛け並びに自由制作(紐づくり)
第15回	釉薬掛け並びに講評会

受講上の注意
作業しやすい服装で受講してください。可能であればエプロン着用での受講をお勧めします。濡れた手や作品を拭くためのタオル持参、筆記用具

特記事項

科目名	工芸基礎実習			教員名	桜井 智裕・秋永 邦洋		
期区分	前期	曜日	土曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	6320

授業目的と到達目標

【アクセサリー】アクセサリーの基礎技法である金属工芸のテクニックを学ぶ。【陶芸】基本的な成形方法と焼成プロセスを知り素材の特性を学ぶ。陶器づくりの、基本的な行程を体験する。素材の特性や技法と表現の関わりを理解する。自らの手で創作する事で、物づくりの楽しさを知る。

授業概要

【アクセサリー】7回の実習。金属を切る、付ける、削る、溶かす、技法でアクセサリー制作及びクラフト作品の制作をおこなう。【陶芸】7回の実習。玉作り/紐づくり/板作り/ろくろ成形、した作品に、下絵付けなどの装飾をおこなう。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	(秋永) 陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。(桜井) 造形作家としての創作活動の経験を生かし、学生たちに作品制作を通して「モノ作り」の基礎や多種多様にわたる柔軟な発想力を身につけてもらえるよう指導します。
作品(完成度や表現の工夫など)	90%	
平常点(出席状況や取り組みの姿勢など)	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

必要に応じて随時配布

参考 URL

科目名	工芸基礎実習			教員名	桜井 智裕・秋永 邦洋		
期区分	前期	曜日	土曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸			年次	1	履修コード	6320

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ガイダンス アクセサリーと陶芸 【アクセサリー】課題説明「真鍮・キーホルダー」基本的なヤスリの使い方を学ぶ
第2回	「銅薄板・レリーフ」半立体による表現を学ぶ、ヘラ押し
第3回	「真鍮・バングル」金槌やタガネによる、鋸目模様
第4回	「洋白・ピンバッジ」ヤスリによる削り出し、はんだ付け
第5回	「錫・菓子皿」鋳造による金属形成、鋸目模様
第6回	「錫・菓子皿」の続き ヘラがけ
第7回	「真鍮・小物入れ」糸鋸で地金を切る、鋸目模様、曲げ加工など
第8回	「真鍮・小物入れ」形を組む、はんだ付け、着色
第9回	土練りと玉作り 500gの土のかたまりから、茶碗を作る。(信楽土)
第10回	土練りと紐づくり 紐づくりで、サラダボールを作る。(直径15センチ／赤合わせ土)
第11回	土練りと板作り 前回のマグカップの仕上げ 「マイアトリエ」のプレート(150×300) (色化粧土で装飾)
第12回	電動ろくろを体験する。(ろくろ成形でぐい飲みを)
第13回	ろくろ仕上げと自由制作(紐づくり)
第14回	釉薬掛け並びに自由制作(紐づくり)
第15回	釉薬掛け並びに講評会

受講上の注意
作業用の服装で、筆記用具は毎回持参してください。実習中は、スリッパやサンダル履きは不可です

特記事項

科目名	専門基礎実習 I			教員名	森 慎司		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	1	履修コード	2324

授業目的と到達目標

油彩画表現の基本的・代表的各ジャンルの構図法、遠近法等を習得し、自己表現のスタートとしての描画力を養う。

授業概要

テーマごとの課題制作●モチーフ（人物・静物）を観察しながら描画する。写生を主とした作品づくり。●構造にもとづいた作品制作

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。
課題作品の評価	85%	
平素の受講態度と学習意欲	15%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門基礎実習 I			教員名	森 慎司		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	1	履修コード	2324

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	課題1	人物画（自画像）作品	F20号				
第2回	課題1	人物画（自画像）作品	F20号				
第3回	課題1	人物画（自画像）作品	F20号	合評			
第4回	課題2	静物画作品	F20号				
第5回	課題2	静物画作品	F20号				
第6回	課題2	静物画作品	F20号	合評			
第7回	課題3	風景画	作品F30号				
第8回	課題3	風景画	作品F30号				
第9回	課題3	風景画	作品F30号				
第10回	課題3	風景画	作品F30号	合評			
第11回	課題4	自由画（具象）作品	F50号	キャンバス張り	エスキース		
第12回	課題4	自由画（具象）作品	F50号	キャンバス張り	エスキース		
第13回	課題4	自由画（具象）作品	F50号	キャンバス張り	エスキース		
第14回	課題4	自由画（具象）作品	F50号	キャンバス張り	エスキース		
第15回	課題4	自由画（具象）作品	F50号	合評			

受講上の注意
油彩画制作なので、汚れが落ちにくいことがあります、服装に留意すること。

特記事項

科目名	専門基礎実習 I			教員名	吉田 真紀子		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	1	履修コード	4115

授業目的と到達目標

凹版技法による表現方法の習得。銅版画の技法を身につけ、自らのイメージを作品にすることを目標とする。

授業概要

銅版画による作品制作。授業は一過程ごとにプリントと参考作品を使って、説明しながら制作を進めていく。凹版の技法、銅版画による制作を行う。授業初日にガイダンス（凹版について）を行う。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	銅版画作家としての経験をもとに、技術指導をします。
作品と技法の理解、習得度を総合的に評価	90%	
出席、課題取り組みなどの受講姿勢	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

なし

参考書・参考文献

プリント、参考資料など

参考 URL

科目名	専門基礎実習 I			教員名	吉田 真紀子		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	1	履修コード	4115

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	直刻法（メゾチント）メゾチントの技法説明、製版準備をする、下絵を描く
第2回	下絵を転写して製版する、印刷（試し刷り）をする
第3回	試し刷りを見ながら修正をする、印刷（本刷り）をして完成。
第4回	腐刻法1（単色刷り）技法説明（エッチング+アクアチント）、製版準備をする、下絵を描く
第5回	下絵を転写して、ラインエッチングの製版を行う
第6回	アクアチント製版を行う
第7回	試し刷りをする
第8回	試し刷りを見ながら修正をする、本刷りをして完成
第9回	腐刻法2（二版多色刷り）技法説明（二版を使っての印刷方法について）、製版準備をする、下絵を描く
第10回	一版目の製版を行う
第11回	二版目の製版を行う
第12回	試し刷りをする
第13回	試し刷りを見ながら修正をする
第14回	本刷りをして完成
第15回	版画特有のサインや限定部数についての説明、作品にサインを入れる、合評を行う

受講上の注意
自分の作品制作という意識を持って積極的に取り組むこと。

特記事項

科目名	専門基礎実習 I			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	1	履修コード	2329

授業目的と到達目標

基本的な技法を更に深く追求し本格的な工芸技法へ繋げる為の学習。技法の組み合わせと応用を学びます。

授業概要

切断/削る/なます/溶かす/溶接/穴あけ/打刻/研磨など、基礎的な技術技法を丁寧に深く学びます。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。
完成度・デザイン	30%	
作品提出	20%	
授業態度	10%	
出席率	40%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

プリント配布

参考 URL

科目名	専門基礎実習 I			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	1	履修コード	2329

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	工具・道具の説明・加工方法・お手入れ方法 糸鋸の練習課題 作業手順の説明
第2回	課題① 糸鋸の練習課題
第3回	課題① 糸鋸の練習課題
第4回	課題② 板材を使った指輪 デザイン制作 切断 ロウ付け
第5回	課題② 板材を使った指輪 研磨 仕上げ
第6回	課題③ 板材を使ったペンダント デザイン制作 切断
第7回	課題③ 板材を使ったペンダント 切断 ロウ付け 研磨
第8回	課題④ 打ち出し練習課題
第9回	課題④ 打ち出しパーツ作り デザイン制作
第10回	課題④ 打ち出しパーツを使ったペンダント
第11回	課題④ 打ち出しパーツを使ったペンダント ロウ付け 研磨
第12回	課題⑤ 線材を使ったチェーン制作 チェーンの作り方 奴床工具に慣れる
第13回	課題⑤ 組み立て 仕上げ
第14回	課題⑥ 留め金具作り 切断 形成 削る ロウ付け
第15回	課題⑥ 研磨 仕上げ 合評

受講上の注意
作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用。

特記事項

科目名	専門基礎実習 I			教員名	秋永 邦洋		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	1	履修コード	2330

授業目的と到達目標

専門基礎実習 I では、粘土素材の性質や、施釉、焼成など陶芸の基本的な制作工程を理解し、基礎技術の習得を目標とする。

授業概要

専門基礎実習 I では、板作りと石膏型の基本的な成形技術を中心に学習する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。
課題への取り組みと進捗・受講姿勢、などをもとに総合評価	100%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門基礎実習 I			教員名	秋永 邦洋		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	1	履修コード	2330

授業計画（各回予定）			
授業内容			
第 1 回	授業計画説明	課題「手びねりによる円筒」	課題説明、粘土の調整（信楽土）、成形
第 2 回	装飾、施釉		
第 3 回	課題「手びねりによる角柱」	課題説明、成形	
第 4 回	装飾、施釉		
第 5 回	課題「石膏一面型による皿」	課題説明、アイデアスケッチ	
第 6 回	原型制作 型成形に適した形の工夫、抜け勾配		
第 7 回	石膏型取り		
第 8 回	課題「石膏二面型による立体」		
第 9 回	原型制作 形の単純化、仕上げ		
第 10 回	石膏型取り		
第 11 回	成形（信楽土）		
第 12 回	成形（赤合せ土）		
第 13 回	装飾、施釉		
第 14 回	施釉、焼成		
第 15 回	合評		

受講上の注意
作業しやすい服装で受講すること。遅刻欠席をしないこと。

特記事項

科目名	専門基礎実習Ⅱ			教員名	森 慎司		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	1	履修コード	3116

授業目的と到達目標

油彩画表現の基本的・代表的各ジャンルの構図法、遠近法等を習得し、自己表現のスタートとしての描画力を養う。

授業概要

テーマごとの課題制作●モチーフ（人物・静物）を観察しながら描画する。写生を主とした作品づくり。●構造にもとづいた作品制作

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。
課題作品の評価	85%	
平素の受講態度と学習意欲	15%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門基礎実習Ⅱ			教員名	森 慎司		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	1	履修コード	3116

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	課題1	人物画（自画像）作品	F20号				
第2回	課題1	人物画（自画像）作品	F20号				
第3回	課題1	人物画（自画像）作品	F20号	合評			
第4回	課題2	静物画作品	F20号				
第5回	課題2	静物画作品	F20号				
第6回	課題2	静物画作品	F20号	合評			
第7回	課題3	風景画	作品F30号				
第8回	課題3	風景画	作品F30号				
第9回	課題3	風景画	作品F30号				
第10回	課題3	風景画	作品F30号	合評			
第11回	課題4	自由画（具象）作品	F50号	キャンバス張り	エスキース		
第12回	課題4	自由画（具象）作品	F50号	キャンバス張り	エスキース		
第13回	課題4	自由画（具象）作品	F50号	キャンバス張り	エスキース		
第14回	課題4	自由画（具象）作品	F50号	キャンバス張り	エスキース		
第15回	課題4	自由画（具象）作品	F50号	合評			

受講上の注意
油彩画制作なので、汚れが落ちにくいことがあります、服装に留意すること。

特記事項

科目名	専門基礎実習Ⅱ			教員名	池田 高広		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	1	履修コード	5114

授業目的と到達目標

版画の基礎的な知識と技能を習得する。孔版の体験を通し、自らの版画技法について方向性を自覚する。

授業概要

孔版シルクスクリーンを中心とした版画技法を用いて作品制作を行う。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	美術家として個展、版画展などの実務経験を基に版画を「深く柔軟に思考・制作」する姿勢を尊重し指導します。
技能習得と受講姿勢	30%	
提出作品による評価	70%	
	%	
	%	
	%	

教科書

無し

参考書・参考文献

プリント、参考資料など

参考 URL

科目名	専門基礎実習Ⅱ			教員名	池田 高広		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	1	履修コード	5114

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	シルクスクリーン（カッティング法）【9月】赤い遮光性のフィルムをカッターナイフで切り込み、版下原稿を作成する。特徴はイメージの単純化を技法的に促されること。カッターナイフを使用した手作業ならではの線の味わいを知る。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	シルクスクリーン（ドローイング法）【10月】トレーシングペーパーにダーマグラフ黒などで描画したり、白い用紙に鉛筆で描画。モノクロコピーしたものが原稿になります。描いた明暗の調子が強調され、そのまま印刷できます。
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	シルクスクリーン（写真製版法）【11月】自らが撮影した写真などをパソコンに取り込み、画像をフォトショップで網分解。写真を点の集合に変換再現します。その際の点（丸）の大きさは大小変えることができそれ自体の配列の不思議さを味わえる作品を生み出すことができます。3原色と黒の4版刷りが色再現の基本です。
第9回	〃
第10回	〃
第11回	シルクスクリーン（モノタイプ）【12月】モノとは一つという意味である。版画の複数性に反していますが。一枚しかできない版画の味わいを体験できる技法です。数種類用意しています。版に直接鉛筆・クレヨンで描くこれを透明インクで刷り落とす。など
第12回	〃
第13回	シルクスクリーン（その他の技法・形成物に印刷する）【1月】版面に水性描画材を用いて描く・乾燥後に油性インクで印刷。焼き付ける版の原稿を作らず直接描画することでダイレクトな線の勢いを表現する技法を体験します。オブラートなど、水で柔らかくなる素材に油性インクで印刷。その後印刷物を石、木など固形物に転写させオブジェクトな作品として完成させる。
第14回	〃
第15回	〃

受講上の注意
道具の扱い、インクの性質上後片付けの時、守ってほしいルールがあります。自分が授業を始めた机の状態に戻して退出して下さい。

特記事項

科目名	専門基礎実習Ⅱ			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	1	履修コード	4313

授業目的と到達目標

鑄造についての基本技術を学習し作品表現の幅を広げます。

授業概要

ロストワックス・キャスティングについての知識と作業工程を学び、基礎的なキャスティング技術を習得します。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。
完成度・デザイン	30%	
作品提出	20%	
授業態度	10%	
出席率	40%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

プリント配布

参考 URL

科目名	専門基礎実習Ⅱ			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	1	履修コード	4313

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	鑄造機や周辺器機と作業手順の説明・キャスト練習問題						
第2回	課題① 装飾品 アイディアスケッチ・デザイン制作・図面作成						
第3回	WAX 原型作成 原型制作についての学習						
第4回	WAX 原型作成 原型制作についての学習						
第5回	石膏埋没 耐火石膏・脱泡機についての学習						
第6回	脱蠟・鑄造 脱蠟窯・鑄造機についての学習						
第7回	研磨・仕上げ 研磨・仕上げについての学習						
第8回	課題② 中空立体の装飾品 アイディアスケッチ・デザイン制作・図面作成						
第9回	中空 WAX 原型作成 原型制作についての学習						
第10回	中空 WAX 原型作成 原型制作についての学習						
第11回	石膏埋没 耐火石膏・脱泡機についての学習						
第12回	脱蠟・鑄造 脱蠟窯・鑄造機についての学習						
第13回	研磨・仕上げ 研磨・仕上げについての学習						
第14回	開閉金具の取り付け						
第15回	仕上げ・合評						

受講上の注意
作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用。

特記事項

科目名	専門基礎実習Ⅱ			教員名	大原 千尋		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	1	履修コード	5325

授業目的と到達目標

素材の特質・成形技法を学び、何故、装飾するのかを考える。ひもづくり・板作り・さらに電動ろくろの基本的な扱いも習得する

授業概要

「ひもづくり・板作り・電動ろくろ」で成形した作品に装飾を施す。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	陶芸作家として個展や数々のグループ展などの出品の経験を元に指導します。
出席状況	50%	
課題提出状況	25%	
やる気	20%	
片付け（掃除）	5%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門基礎実習Ⅱ			教員名	大原 千尋		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	1	履修コード	5325

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ひもづくり+板作り成形 「一輪挿し」 10×7×15 cm 信楽土
第2回	「一輪挿し」の仕上げ 印花
第3回	ひもづくり成形 「玉子の形」 高さ 20 cm 赤合せ土
第4回	玉子の形の仕上げ 掻き落とし
第5回	施釉と焼成
第6回	電動ろくろの基本的な扱い
第7回	電動ろくろによる「汲み出し茶碗」
第8回	電動ろくろによる「汲み出し茶碗」
第9回	電動ろくろによる「汲み出し茶碗」
第10回	電動ろくろによる「汲み出し茶碗」(削り)
第11回	電動ろくろによる「汲み出し茶碗」(削り)
第12回	電動ろくろによる「小鉢か飯茶碗」
第13回	電動ろくろによる「小鉢か飯茶碗」(削り)
第14回	施釉と焼成
第15回	合評

受講上の注意
作業しやすい服装で受講すること。遅刻欠席をしないこと。

特記事項

科目名	コミュニケーション			教員名	原田 昌幸		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)、美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	6406

授業目的と到達目標

コミュニケーションとは、様々なもののあいだに生じる。人と人、人とモノ、人と環境、自己と自己。アーティストにとって必要なコミュニケーションとは、他者との相互理解だけでなく、自己と周りを取り囲む環境との関係性も重要な要素である。そして何よりも、自己と自己の意識野との関係、ひいては自己の作品世界との関係性こそが、アーティストにとっての重要なコミュニケーション力となる。本授業では、様々な制作やワークショップを体験する中で、自己の作品制作におけるコンセプトの構築に結び付けることが出来るように展開していく。

授業概要

前半は、自分とは何者かについて、自分自身で見つめ直したり、他者からの視点で再発見していく。また、自己の周りの世界を様々な方法で見つめなおすことで、自らの置かれている世界を再認識する。後半は、自分自身の専攻での作品をテーマにした絵本を制作することで、より幅広い視野から何を表現したいのか、するべきなのかについて考察する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	現代美術作家「原田要」として数々の発表を行ってきた経験や、幼児教育を専門とした大学での実習指導などでの経験を活かし、人と人、人と作品の相互関係について幅広く指導していきます。
作品	80%	
態度	20%	
	%	
	%	
	%	

教科書

無し

参考書・参考文献

授業内容に応じてプリントなど配布する

参考 URL

科目名	コミュニケーション			教員名	原田 昌幸		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)、美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	6406

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	自分史グラフを作る 興味のあるものを思い出しながら、自己の関心の変遷を辿る
第2回	他者紹介 ペアになって、相手の興味やこれまでの歩みをインタビューする
第3回	自分のマトリックスを作る
第4回	社会のマトリックス作成
第5回	きれいな汚れを探そう 学校の周りを探索し、ふだん見逃してしまうが気になる汚れを撮影し発表する
第6回	デッサン コーナーを描く1 デッサンとは、自分とまわりの環境とのコミュニケーション
第7回	デッサン コーナーを描く2
第8回	からだで測る 周りの環境に自分の身体を投げ出してみる
第9回	自己と作品、社会と作品の関係について
第10回	絵本の作成1 自分の卒業制作にかかわる作品について、基本的なコンセプトを確かめながら、それを基にして絵本の形式を用いて豊かなものにしていく
第11回	絵本の作成2 自分の作品の中での主要な存在を確認していく
第12回	絵本の作成3 物語性を意識しながら、展開を考える
第13回	絵本の作成4 作画作業
第14回	絵本の作成5 作画作業
第15回	絵本完成 発表

受講上の注意
本演習は単独で行うものもありますが、互いに協力しながら進めていくものも多いので、欠席すると他のメンバーが困ることになります。必ず出席するようにしてください。

特記事項

科目名	現代美術演習			教員名	原田 昌幸		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)、美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	2112

授業目的と到達目標

“オブジェからポップアートへ”と“平面の自覚”を2つの柱とし、追体験を通して多様化する現代美術への基礎的理解を図る。単に現代美術の状況を知るだけでなく、体験や合評を重ねる中で、各自の制作についても、本来何が重要なのかを考えていく。

授業概要

各課題 1～2 週で、オブジェや平面についての簡単な講義をした上で各自作品を制作し、毎回合評を行う。作品の完成度などよりも、合評の中での互いの考え方の違いを知ることが大切にしていく。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	現代美術作家「原田要」として作品発表してきた経験を活かし、現代におけるアートのあり方を多方面から指導していきます。
作品	60%	
合評での発言など	30%	
平常点	10%	
	%	
	%	

教科書

無し

参考書・参考文献

授業内容に応じてプリントなど配布する

参考 URL

科目名	現代美術演習			教員名	原田 昌幸		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)、美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	2112

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	オリエンテーション						
第2回	オブジェについて 普段何気なく使っている”製品”が、使え無い存在になることで”オブジェ”という見られる作品になる。 教室の椅子をオブジェにしてみる。						
第3回	フロタージュによるシュールー平面作品						
第4回	フロタージュによるシュールー立体作品						
第5回	ポップ・アートについて アンディ・ウオーホルに代表されるポップ・アート。単に見た目の魅力ではなく、社会や時代に対する深い意義があるのだが、それを知ったうえで、”今”をテーマに制作する。						
第6回	〃						
第7回	〃						
第8回	インスタレーションについて 空間を生かしたインスタレーション（仮設芸術）について。 クリストについて学習し、新聞紙を素材に空間を作る。						
第9回	〃						
第10回	オールオーバーについて 抽象表現主義のオールオーバーな画面の持つ意味を理解し、作品制作する。						
第11回	〃						
第12回	〃						
第13回	ミニマルアートについて ミニマルアートそのものについて理解しながら、各自の制作している絵画やプリント作品の要素を見つめ直し、自身の作品にとって本当に必要な最小限のものは何なのかについて考える。						
第14回	〃						
第15回	〃						

受講上の注意
制作の作品内容よりも、合評でのお互いの考え方を重視する内容になっていますので、欠席することの無いように。堅苦しく考えず、思いついたことを気軽に何でも話し合う場にしたいので、積極的に発言してください。

特記事項

科目名	ガラス工芸			教員名	梅本 幸江		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	3-4 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)、美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	2325

授業目的と到達目標

ガラス工芸のさまざまな技法を理解し習得しながら、作品への可能性を求めデザインし制作する。

授業概要

ホットワーク、コールドワーク、キルンワークに分類されるガラス工芸技法の理解を深める。キャスト（ casting ）では皿もしくはペーパーウェイトを制作。フュージングでは箸置きやペンダントトップなどの小物を制作する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	ガラス作家としての制作経験と、工房での体験や教室指導の経験を元にガラス工芸の基礎と表現を指導します。
作品のデザイン力、完成度	60%	
課題への取り組み態度	40%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	ガラス工芸			教員名	梅本 幸江		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	3-4 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)、美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	2325

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	課題説明（キャスト）サンプル原型制作
第2回	（キャスト）石膏型制作
第3回	（キャスト）ガラス詰め・窯入れ
第4回	（キャスト）焼成/(フュージング)ガラスカット
第5回	（キャスト）作品取り出し・研磨/(フュージング)窯入れ
第6回	（キャスト）粘土原型制作/(フュージング)焼成
第7回	（キャスト）粘土原型制作/(フュージング)焼成
第8回	（キャスト）粘土原型制作/(フュージング)仕上げ
第9回	（キャスト）石膏型制作
第10回	（キャスト）ガラス詰め・窯入れ
第11回	（キャスト）焼成
第12回	（キャスト）作品取り出し・研磨
第13回	作品の仕上げ、研磨
第14回	作品の仕上げ、研磨
第15回	レポート作成・合評

受講上の注意
筆記具を持参してください。作業時は汚れても良い服装で、火を使う作業時は燃えにくい綿などの作業着を着用の事。ガラス破片による怪我防止のため、サンダル履き禁止。

特記事項

科目名	モデル制作			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)、美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	2328

授業目的と到達目標

異なる素材同士を組み合わせる制作するデザインと色彩展開を考え、素材の取り扱い方・切断・接着・着色・組み立てなど制作を通して素材に触れ、性質・特徴を学習します。

授業概要

異素材とのデザインやバランスを考えながら制作から完成までの工程を学びます。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。
完成度・デザイン	30%	
作品提出	20%	
授業態度	10%	
出席率	40%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

プリント配布

参考 URL

科目名	モデル制作			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)、美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	2328

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	課題① 課題と作業手順の説明 デザイン制作 デザインチェック
第2回	デザインチェック 材料の下地作り 原型制作
第3回	原型制作 研磨
第4回	原型制作 研磨 ゴム型作り
第5回	ゴム型作り 型取り
第6回	ゴム型作り 型取り 注入 形成 研磨 仕上げ
第7回	型取り 注入 形成 研磨 仕上げ 組み立て
第8回	課題② 課題と作業手順の説明 デザイン制作 デザインチェック
第9回	材料の下地作り 透かし
第10回	材料の下地作り 透かし
第11回	金属材料の下地作り 透かし
第12回	金属材料の下地作り 透かし 切断
第13回	透かし 切断 研磨 組み立て
第14回	切断 研磨 組み立て 彩色注入 仕上げ
第15回	彩色注入・仕上げ 合評

受講上の注意
作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用。

特記事項

科目名	材料演習			教員名	原田 昌幸		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	2111

授業目的と到達目標

絵画に限らず、どのような表現手段においても、それぞれに合った材料が必要であり、逆に材料によって表現内容が変化する。美術史においても、描かれる内容の変化よりも、何で描くのかという描画材の歴史でもある。この授業では大きく分けて平面課題と立体課題の2種類に分かれるが、平面課題においては蜜蝋画とフレスコ画という古典技法を体験する。それぞれ顔料から自分の手で絵の具を作るところから始めることにより、描くということの原点を見つめ直す。立体課題においては、自然木を素材に彫刻刀で彫り進めていく。最初に何を彫るかは考えず、木

授業概要

蜜蝋画では顔料を蜜蝋に混ぜて描く。フレスコ画では漆喰下地を作成し、乾く前に描いていく。それぞれ油彩画以前の古典技法であるが、自分で絵の具を作るところから始める。立体課題では自然木を素材に、時間をかけて彫刻刀で彫り進めていく。そのなかで、素材とは何か、かたちとは何かなど、表現において大切なことがらについて考えていく。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	現代美術作家「原田要」として数々の発表を行ってきた経験を活かし、表現における材料の意味と役割について深く指導していきます。
作品	80%	
態度	20%	
	%	
	%	
	%	

教科書

無し

参考書・参考文献

授業内容に応じてプリントなど配布する

参考 URL

科目名	材料演習			教員名	原田 昌幸		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	2111

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	オリエンテーション、絵の具について
第2回	エンコスティック1 蜜蝋による彩色技法について学ぶ
第3回	エンコスティック2 蜜蝋に顔料を混ぜて彩色
第4回	エンコスティック3 完成
第5回	フレスコ画1 古典技法であるフレスコ画について学ぶ
第6回	フレスコ画2 下地を作成する
第7回	フレスコ画3 漆喰下地を作り描画する
第8回	手の中のかたち1 石膏で手をかたどる
第9回	手の中のかたち2 かたどった石膏を磨いて良い形にする
第10回	触りごちのいいかたち1 木を素材に彫刻刀で彫っていく
第11回	触りごちのいいかたち2 木の中から良い形を探りながら彫り進める
第12回	触りごちのいいかたち3 部分を大切にしながら彫り進める
第13回	触りごちのいいかたち4 全体のつながりを意識して彫り進める
第14回	触りごちのいいかたち5 表面を磨いて完成に近づける
第15回	触りごちのいいかたち6 ワックスをかけて完成

受講上の注意
本演習は、長い時間をかけて行うものと、短時間で完成させなければいけないものの両方を含みます。フレスコ画など、その時間内で行わないと完成できないものもあるので、授業時間には遅れないようにしてください。

特記事項

科目名	テンペラ技法演習			教員名	森 慎司		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	3-4 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	3321

授業目的と到達目標

テンペラ油彩混合技法画のための基底材・下地処法技術の修得。古典絵画技法に必須の知識と新画材の用法の修得。作品制作過程における発想展開方法の理解と修得。

授業概要

有色下地によるデッサンと、制作工程を意識した写実的多階調傾向のテンペラ画制作を行う。一般的な油彩技法と手順工程の違う伝統的手法で制作にとりくむ。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。
課題作品の提出	85%	
平素の授業態度・学習意欲など	%	
15	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	テンペラ技法演習			教員名	森 慎司		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	3-4 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	3321

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	卵テンペラ及び混合技法の歴史・用法・効果の概説
第2回	下地の制作
第3回	インプリミトゥーラと転写技法、ハッチング
第4回	デトランプ技法による作品制作1
第5回	デトランプ技法による作品制作2
第6回	卵テンペラ ハッチング技法による作品制作1
第7回	卵テンペラ ハッチング技法による作品制作2
第8回	卵テンペラ ハッチング技法による作品制作3
第9回	卵テンペラ ハッチング技法による作品制作4
第10回	卵テンペラ ハッチング技法による作品制作5
第11回	テンペラ油彩混合技法による作品制作1
第12回	テンペラ油彩混合技法による作品制作2
第13回	テンペラ油彩混合技法による作品制作3
第14回	テンペラ油彩混合技法による作品制作4
第15回	テンペラ油彩混合技法による作品制作5

受講上の注意
技法上の目的と制約から、制作作品のスタイルに条件があります。授業中に述べますので注意してください。

特記事項

科目名	映像表現			教員名	東陰地 正喜		
期区分	前期	曜日	土曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	6122

授業目的と到達目標

映像による表現の基礎を学び、さまざまな表現の可能性を開拓する。

授業概要

映像（動画）の基本的な成り立ちから、映像の制作過程を体験する。カメラの知識・扱い方、コンピュータによる編集・加工、録音から音の編集などを学び、さまざまな実験を行いながら、映像作品を作る。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	映像を用いたインスタレーションなどの作品制作を行っている教員による基礎から実践・実験までの演習。
出席状況	30%	
授業に取り組む姿勢	30%	
課題	40%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	映像表現			教員名	東陰地 正喜		
期区分	前期	曜日	土曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	6122

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	概論 映像体験
第2回	映像の本質～原始アニメーションと影絵
第3回	シネマカリグラフィとフィルムペインティング
第4回	カメラについて 撮影実験1
第5回	基本的な編集 編集実験1
第6回	コマ撮り実験
第7回	音と画で遊ぶ
第8回	企画を立てる／絵コンテを描く
第9回	絵コンテに沿って撮影する
第10回	追加撮影 撮影実験2
第11回	編集・加工
第12回	アレンジ 編集実験2
第13回	音の作業
第14回	課題制作1
第15回	課題制作2

受講上の注意

特記事項

科目名	メディア演習			教員名	上田 佳奈		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(版画)、オープン科目			年次	2	履修コード	3120

授業目的と到達目標

最もシンプルで身近な表現媒体である「本」の意義や可能性を改めて考える。本作りの基礎を習得し、各々の「本」、それによる表現を見い出す。

授業概要

多種多様な本、またアートブック（芸術としての本）を紹介します。まずは簡単な本作り、そして作品としての本作りにも挑戦していただきます。その過程で生まれた新たなアイデアも大切に形にして行き、表現の幅を拡げます。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	印刷会社にて ZINE（小冊子）や本の制作に携わった経験と、作家として版画や写真など様々な印刷メディアを用いて制作をしてきた経験を元に指導いたします。
提出作品	30%	
出席	30%	
制作過程	40%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	メディア演習			教員名	上田 佳奈		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(版画)、オープン科目			年次	2	履修コード	3120

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	様々な本、アートブック紹介
第2回	「ZINE/小冊子」制作(ページ割りなど、ZINE や冊子の構成を考える) 1
第3回	「ZINE/小冊子」制作(ページ割りなど、ZINE や冊子の構成を考える) 2
第4回	「ZINE/小冊子」制作 (大きさ、素材など装丁を考える) 1
第5回	「ZINE/小冊子」制作 (大きさ、素材など装丁を考える) 2
第6回	「ZINE/小冊子」制作 (大きさ、素材など装丁を考える) 3
第7回	「作品集」制作 (自作の作品集、自分の作品を演出する) 1
第8回	「作品集」制作 (自作の作品集、自分の作品を演出する) 2
第9回	「作品集」制作 (自作の作品集、自分の作品を演出する) 3
第10回	「作品集」制作 (自作の作品集、自分の作品を演出する) 4
第11回	「アートブック」制作 (作品として、本を作る) 1
第12回	「アートブック」制作 (作品として、本を作る) 2
第13回	「アートブック」制作 (作品として、本を作る) 3
第14回	「アートブック」制作 (作品として、本を作る) 4
第15回	「アートブック」制作 (作品として、本を作る) 5

受講上の注意
なかなかタイトなスケジュールです。良いものを作るために、なるべく遅刻、欠席の無い様にお願いします。

特記事項

科目名	メタルアート演習			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	4123

授業目的と到達目標

作品テーマを熟考し、意味やメッセージを作品に投影する為の考えを学習します。これまでに学んできた技術や知識をもとに設計したデザインを限られた制作期間内で効率よく制作する。

授業概要

これまでに学んできた技術や知識をもとに設計したデザインを限られた制作期間内で効率よく制作します。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。
完成度・デザイン	30%	
作品提出	20%	
授業態度	10%	
出席率	40%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

プリント配布

参考 URL

科目名	メタルアート演習			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	4123

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	卒業制作の為の企画 テーマを考え・表現方法を検討・資料チェック
第2回	デザイン画・図面制作・完成予想図・実寸図面の作成・サンプル作り
第3回	デザインに基づいた作品の制作
第4回	デザインに基づいた作品の制作
第5回	デザインに基づいた作品の制作
第6回	デザインに基づいた作品の制作
第7回	デザインに基づいた作品の制作
第8回	デザインに基づいた作品の制作 中間チェックと検証・変更や追加を検討
第9回	デザインに基づいた作品の制作
第10回	デザインに基づいた作品の制作
第11回	デザインに基づいた作品の制作
第12回	デザインに基づいた作品の制作
第13回	デザインに基づいた作品の制作
第14回	展示環境の作成
第15回	展示環境の作成・合評

受講上の注意
作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用。

特記事項

科目名	マテリアル演習			教員名	加藤 涼子		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	3411

授業目的と到達目標

オリジナルの鋳鑿（じょうたがね）を作成し、技法や表現力・応用力を身に付けます。他の技法との比較・メリット・デメリットを体験しながら鋳鑿による伝統技法を学習していきます。

授業概要

鋳鑿の図面を作り凹凸の形状を想像・予測しながら道具（鑿）を作成する。鋳鑿から作られる装飾品の作成と半立体物を使った応用作品の制作を通じて鋳鑿を使った一連の技法と知識を学習します

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。
完成度・デザイン	30%	
作品提出	20%	
授業態度	10%	
出席率	40%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

プリント配布

参考 URL

科目名	マテリアル演習			教員名	加藤 涼子		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	3411

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	課題①デザイン制作 鋳型の説明と鋳型を使って作る装飾品についての学習
第2回	デザインチェック・鋳制作 図面に基づいて鋳の株を削り出す
第3回	鋳型制作 鋳作成について
第4回	鋳型制作 サンプル打ちをしながら微調整していく
第5回	完成した鋳型によるパーツ制作
第6回	完成した鋳型によるパーツ制作
第7回	完成した鋳型によるパーツ制作と組み立て
第8回	組み立て・研磨
第9回	組み立て・仕上げ
第10回	課題②鋳型で作る応用作品
第11回	鋳型によるパーツ制作
第12回	鋳型によるパーツ制作
第13回	必要なパーツの追加・石膏埋没
第14回	組み立て・研磨
第15回	研磨・仕上げ・合評

受講上の注意
作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用。

特記事項

科目名	クラフトデザイン			教員名	秋永 邦洋		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	2116

授業目的と到達目標

クラフトデザインでは、やきものの産業的側面における図案や図面の重要性を理解し、基礎的な製図技術と量産性も視野に入れた成形技術の習得を目的とする。

授業概要

クラフトデザインでは、基礎的な製図技術と泥漿鑄込みによる作品制作を学習する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	クラフトデザインに関して、陶芸作家の経験を元に指導します。
出席状況、授業態度	70%	
提出課題の評価	30%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	クラフトデザイン			教員名	秋永 邦洋		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	2116

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	授業計画説明 クラフト及びプロダクトデザインについて
第2回	製図の基礎練習（平面図法、正投影図法）
第3回	量産陶磁器の装飾
第4回	マグカップの製図①
第5回	マグカップの製図②
第6回	課題「泥漿鑄込みによるカップ」 泥漿鑄込み成形の説明
第7回	原型制作
第8回	石膏型取り
第9回	課題「泥漿鑄込みによるオブジェ」 アイデアスケッチ
第10回	原形制作
第11回	原型制作
第12回	石膏型取り
第13回	石膏型取り
第14回	石膏型取り
第15回	泥漿の調整

受講上の注意
●授業開始時に課題や作業の説明を行うので、遅刻しないこと。●6週目以降は実習形式で授業を行うので、汚れても良い作業服や作業靴を用意することが望ましい。

特記事項

科目名	装飾表現			教員名	秋永 邦洋		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	3412

授業目的と到達目標

1 年生で習得した手捻り技法の発展を試みる。立方体など幾何形態から様々な形態を制作し造形力の向上を目標とします。

授業概要

手捻り技法を用いてあらゆる表現の可能性を探る。窯づめ、焼成の実習のも取り組む。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	装飾表現に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。
受講姿勢	50%	
課題の評価	50%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	装飾表現			教員名	秋永 邦洋		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	4-5 時限	形態	演習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	3412

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	手捻り（立方体）
第2回	手捻り（立方体）の続き
第3回	手捻り（立方体）の続き
第4回	手捻り（立方体）の仕上げ
第5回	手捻り（底のない形）
第6回	手捻り（底のない形）の続き
第7回	手捻り（底のない形）の続き
第8回	手捻り（底のない形）の仕上げ
第9回	タタラ（立方体）
第10回	タタラ（立方体）の続き
第11回	タタラ（立方体）の続き
第12回	タタラ（立方体）の仕上げ
第13回	装飾
第14回	施釉 焼成
第15回	合評

受講上の注意
遅刻欠席しないこと。作業しやすい服装で受講すること。

特記事項

科目名	専門実習 I			教員名	森村 誠		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	6120

授業目的と到達目標

一年生の基礎的内容と比べ、二年生は応用的内容と位置づけ、より専門的知識と実技能力を取得することを目的とする。将来の各自の創作を視野に入れた構想力、センスを養う。

授業概要

油彩画制作において、各自の自由な創作の促進を基本とするが、必要最低限の事項は適宜アドバイスしていく。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	油彩画制作の技術・物事の捉え方など、美術作家としての経験を元に指導します。
出席率	50%	
課題への評価（アイデア・センス）	15%	
課題への評価（技術）	15%	
制作態度・姿勢	20%	
	%	

教科書

なし

参考書・参考文献

講師が持参する

参考 URL

科目名	専門実習 I			教員名	森村 誠		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	6120

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	シュール画のエスキース	キャンバスの調達をする。	
第2回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	キャンバスに制作する。	初期の下絵を作成する。	
第3回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	彩色描画、表現技法の研究		
第4回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	彩色描画、表現技法の研究		
第5回	課題2	抽象画	作品	1 8 0 × 9 0 cmの板版	抽象画のエスキース	画面に合わせた加工を行なう。下地	
第6回	課題2	抽象画	作品	1 8 0 × 9 0 cmの板版	抽象画のエスキース	初期の下絵を作成する。	
第7回	課題2	抽象画	作品	1 8 0 × 9 0 cmの板版	彩色描画、表現技法の研究		
第8回	課題2	抽象画	作品	1 8 0 × 9 0 cmの板版	彩色描画、表現技法の研究	合評	
第9回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	自画像のエスキース	キャンバスの調達をする。	
第10回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	キャンバスに制作する。	初期の下絵を作成する。	
第11回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第12回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第13回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第14回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第15回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	合評		

受講上の注意
積極的に制作し、完成を目指し、参加すること。

特記事項

科目名	専門実習 I			教員名	吉田 真紀子		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	5115

授業目的と到達目標

展覧会の企画と作品制作。これらの準備を一連の流れの中で立体的にコミュニケーションできる能力を養う。

授業概要

展覧会の期日を決め、そこに至る道筋を計画し版画作品を制作する。展覧会チラシ、案内状、パンフレット、ポートフォリオのデザインを学び、前期末の学内展示に生かし、制作発表する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	版画作家としての経験をもとに、作品作りに関する考え方や技術の指導、展覧会のための額装や展示方法、案内状の作り方などを指導します。
作品	90%	
受講姿勢	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

無し。

参考書・参考文献

プリント・参考資料等を使用。

参考 URL

科目名	専門実習 I			教員名	吉田 真紀子		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	5115

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ガイダンス
第2回	展覧会日程を検討・決定
第3回	展覧会チラシについて学ぶ。
第4回	案内状について学ぶ。
第5回	ポスターを作るなら、どんな情報が必要かを考える。
第6回	作品撮影の重要性を知る
第7回	作品撮影
第8回	ポートフォリオ冊子の企画
第9回	チラシデータ作成・印刷
第10回	案内状データ作成・印刷
第11回	ポスターデータ作成
第12回	ポスター・印刷依頼
第13回	案内状発送
第14回	作品搬入・合評
第15回	作品搬出・まとめ

受講上の注意
額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要である。計画的な作業を心がける。

特記事項
※各回予定は大まかな時期の概要説明でもあり、[作品]製版・印刷の作業実習が含まれている。

科目名	専門実習 I			教員名	加藤 涼子		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	2-4 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	4204

授業目的と到達目標

量産するために適した形をデザインし、成形の仕方から元型作り量産に至るまでの過程を学びます。ロストワックスとの作業の違い、他の技法との比較でメリット・デメリットを考える力を身に付けます。

授業概要

量産用に適したデザインをよく検討し、成形/キャスト/研磨/仕上げ/ゴム型作り/量産ワックス作り/組み立てなど必要な工程を経験し量産に関する技術と知識を学習します。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。
完成度・デザイン	30%	
作品提出	20%	
授業態度	10%	
出席率	40%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

プリント配付

参考 URL

科目名	専門実習 I			教員名	加藤 涼子		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	2-4 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	4204

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第 1 回	課題 ①デザイン制作 連続パターンを用いた課題の説明とデザインについての学習
第 2 回	デザインチェック・ 原型制作 図面に基づいて作る原型を作る
第 3 回	原型制作 WAX 原型作成について
第 4 回	原型制作・石膏埋没 石膏埋没について
第 5 回	鋳造・仕上げ 鋳造作業と仕上げについて
第 6 回	仕上げ・ゴム型作り ゴム型用に金型原型を作成、ゴム型について
第 7 回	ゴム型取り・注入 ゴム型の切開について、注入作業について
第 8 回	WAX 注入 ・組み立て・石膏埋没 複数の石膏埋没作業について
第 9 回	鋳造・組み立て 鋳造作業と仕上げについて
第 10 回	仕上げ 鋳物の仕上げ作業
第 11 回	研磨・組み立て 組み立てと仕上げについて
第 12 回	課題②応用デザイン・制作 応用について
第 13 回	必要なパーツの追加・石膏埋没
第 14 回	鋳造・仕上げ
第 15 回	仕上げ 合評

受講上の注意
作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用。

特記事項

科目名	専門実習 I			教員名	山村 幸則		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	6124

授業目的と到達目標

「やきもの」を主に機能性と量産性の面から考察し制作する。尚且つ、より自由な発想で生活への積極的な提案を試みる。単に技法・技術の習得のみにとどまらず、個々の潜在的な興味や趣味趣向を引き出し、自己表現力の向上を目標とする。

授業概要

ろくろ成形の習得。 焼成方法の習得。自己表現力の向上。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	美術家として国内外で数多くの滞在制作、展覧会、プロジェクト、ワークショップ等に取り組んでいる経験を元に陶芸の技法と表現を指導します。
受講姿勢	50%	
課題評価	50%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習 I			教員名	山村 幸則		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	6124

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	土練り（荒練り・菊練り）～電動ろくろの操作方法について、準備、ろくろの使用、後片付けまで
第2回	土練り～電動ろくろの使用、成形の基本技術（土殺し、土取り、成形、糸切り）を繰り返す
第3回	蕎麦猪口について調査研究（蕎麦猪口の歴史、器としての役割、種類・形・意匠などを調査、研究） 発表 各自、蕎麦猪口アイディアスケッチ、デザイン（案）、製図（成形時と焼成後の収縮率について）発表
第4回	ろくろ成形に使用する道具類（木ゴテ・トンボ・切り糸・なめし革・削りカンナ）の制作
第5回	目標とする形をイメージし、ろくろ成形の基本技術を繰り返し、修練を積む
第6回	量産方法→高台の成形、削りの練習（シッタ、トースカン、削りカンナの使用法）／ 粘土の再生（成形→乾燥→再生）を学ぶ
第7回	5客または6客1セットの完成を目標にろくろ成形を繰り返し練習する
第8回	5客または6客1セットの完成を目標に高台の成形、削りを繰り返し練習する
第9回	5客または6客1セットの完成を目標にろくろ成形を繰り返し練習する
第10回	5客または6客1セットの完成を目標に高台の成形、削りを繰り返し練習する
第11回	素焼き（窯道具の使用、蕎麦猪口及び、作品の窯詰め、焼成方法、温度管理について）
第12回	素焼き窯出し（後片付け）絵付け、釉薬掛け（釉薬・顔料・絵の具の使用法を学び）施釉～本焼き（酸化焼成）窯詰め
第13回	本焼き窯出し（後片付け）窯出し後、作品の仕上げ（砥石、布ヤスリ、リユーター電動工具の使い方について）～本焼き（還元焼成）窯詰め
第14回	本焼き窯出し（後片付け）窯出し後、作品の仕上げ / 展示方法・計画を熟考→合評に向けて
第15回	合評（作品の試用）・卒業制作について

受講上の注意
遅刻欠席をしないこと。作業しやすい服装で受講すること。毎回、筆記用具、スケッチブックを持参のこと。

特記事項

科目名	専門実習Ⅱ			教員名	本庄 剛		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	3118

授業目的と到達目標

二年間の学習の総括としてふさわしい一枚の作品を完成させることを目指します。着想から完成まで、試行錯誤の中で時間をかけてやりとげることが目標とします。

授業概要

自由制作による油彩・アクリル作品制作。後期は卒業制作を課題とするため、技術指導、メンタル指導共に厳しく行う方針です。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	平成14年3月東京芸術大学大学院修了 在校時から現在に至るまで作家活動を継続。
出席率	50%	
発想力・アイデア・センス	30%	
技術・テクニック	20%	
	%	
	%	

教科書

なし

参考書・参考文献

講師が持参

参考 URL

科目名	専門実習Ⅱ			教員名	本庄 剛		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	3118

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	エスキース	キャンバスの調達をする。
第2回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	エスキース	制作計画
第3回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	キャンバス	に制作する。初期の下絵を作成する。
第4回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第5回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第6回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第7回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第8回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第9回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第10回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第11回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第12回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第13回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第14回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第15回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	作品のプレゼン計画、展示研究	

受講上の注意
出席率が低い者は評価しないので各自注意して下さい。

特記事項

科目名	専門実習Ⅱ			教員名	池田 高広		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	4320

授業目的と到達目標

2 学年前期までの版画、専門基礎実習、専門実習で学んだことを総合させ、作品制作と発表における思考法を学ぶ。

授業概要

後期学期末の卒業制作を視野に入れ、展示方法も考察しつつ、現実的に制作可能な作品サイズ、点数などを計画する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	美術家として個展、版画展などの実務経験を基に版画を「深く柔軟に思考・制作」する姿勢を尊重し指導します。
作品	90%	
受講姿勢	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

無し。

参考書・参考文献

プリント・参考資料等を使用。

参考 URL

科目名	専門実習Ⅱ			教員名	池田 高広		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	4320

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ガイダンス
第2回	後期の制作計画を立案する
第3回	卒業制作の展示を計画する自らのテーマを再認識する。
第4回	作品制作と合評を通して自らの固有なメッセージ性を知る。
第5回	緩やかな、試みの時期として10月中旬まで数種類の版をためしてみる。
第6回	[作品]・原画制作
第7回	製版・印刷
第8回	作品]・原画制作
第9回	製版・印刷
第10回	[作品]・原画制作
第11回	製版・印刷
第12回	パネル張り・額装異形パネル等、必要とされれば木部材加工にてパネル製作
第13回	展示方法を吟味する。
第14回	この時期までの作品のポートフォリオを了させる
第15回	作品採点・合評・まとめ

受講上の注意
額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要であり。計画的な作業を求めます。

特記事項
※後期専門実習Ⅱは専門実習Ⅳと連携した内容で授業を行う。※各回予定は大まかな時期の概要説明でもあり、[作品]製版・印刷の作業実習が含まれている。

科目名	専門実習Ⅱ			教員名	八木 牧子		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	3323

授業目的と到達目標

卒業制作のテーマを決め、これまでの学習で得た技術・技法を駆使し集大成となる作品制作を行います。(卒業制作)

授業概要

作品制作の視点から適合した表現方法（彫金、鍛金、溶接、ロストワックス等の技法）を選び、今まで学んだ技術や知識を基礎に置き、新しい可能性を求めながら個々のテーマに沿った作品を制作します。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	ジュエリー作家の元で修行後、読売新聞社の彫金教室や大阪市立クラフトパークなどで Metal Work の技術を指導する現役 彫金作家が指導します。
作品完成度	50%	
課題への取り組み・態度	25%	
作品提出率	15%	
出席状況	10%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅱ			教員名	八木 牧子		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	3323

授業計画（各回予定）		
授業内容		
第1回	卒業制作資料収集	アイデアスケッチのチェック
第2回	卒業制作資料収集	アイデアスケッチのチェック
第3回	デザイン決定	図面またはモックアップ(原寸大模型)作り
第4回	デザイン決定	図面またはモックアップ(原寸大模型)作り
第5回	作品制作	
第6回	作品制作	
第7回	作品制作	
第8回	作品制作	
第9回	作品制作	
第10回	中間チェック	
第11回	作品制作	ディスプレイも合わせて制作
第12回	作品制作	ディスプレイも合わせて制作
第13回	作品制作	ディスプレイも合わせて制作
第14回	作品制作	ディスプレイも合わせて制作
第15回	合評	

受講上の注意
前期「卒業制作Ⅰ」のPre(事前)授業で経験し学んだ事を活用し 卒業制作に挑んでもらえればと思います。

特記事項

科目名	専門実習Ⅱ			教員名	山村 幸則		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	6125

授業目的と到達目標

既成概念にとらわれない自由な思考に基づく新しい陶表現を追求する。各自のテーマに沿い、皆で意見交換、アイデアの発展を繰り返し、より柔軟な制作の過程を見つける。表現に適した材料の選択を体得する。卒業制作作品の制作。

授業概要

陶芸実習Ⅳと連続した授業内容で進行。制作過程で生じる様々な問題点について個々に対処し、より高度な表現を目指し、卒業制作作品に向かう。就職・進学のための、制作過程記録、作品写真撮影、作品集の制作も同時に行う。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	美術家として国内外で数多くの滞在制作、展覧会、プロジェクト、ワークショップ等に取り組んでいる経験を元に陶芸の技法と表現を指導します。
受講姿勢	50%	
課題評価	50%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅱ			教員名	山村 幸則		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	6125

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	各自、夏期休暇中に熟考したテーマに基づく作品の構想、アイデアを、スケッチ、模型等を用い、卒業制作の計画発表と意見交換を行う						
第2回	初回、発表した作品の構想を踏まえ、更にアイデアの発展を繰り返し、アイデアスケッチ、模型等の制作を行う						
第3回	発展を繰り返して来たアイデアをスケッチ、模型等を用い、卒業制作作品の計画、詳細の発表と意見交換を行う						
第4回	各自のテーマに合った成形方法、焼成方法、組み立て、展示方法など、複数案の選択肢を持ちイメージを広げ、比較検討する						
第5回	アイデア及び、資料の収集、スケッチ、模型の制作を行い、成形方法を決定し、本格的に制作を開始する						
第6回	テストピース、模型の素焼き窯詰め。制作過程において更にアイデアと作品が発展する様、それぞれと話し合いを重ね、制作を継続する						
第7回	テストピース、模型の施釉、本焼き窯詰め、本焼き焼成。制作進行状況の中間報告と後半に向けての計画発表を共有する						
第8回	各々の制作進行状況に合わせ、他の授業との連携を図りながら、制作を進める 制作過程の記録も適宜行う						
第9回	〃						
第10回	各々の制作進行状況に合わせ、他の授業との連携を図りながら、制作を進める 制作過程の記録も適宜行う						
第11回	素焼き窯出し（後片付け）絵付け、釉薬掛け（釉薬・顔料・絵の具の使用方法を学び）施釉～本焼き（酸化焼成）窯詰め						
第12回	本焼き窯出し（後片付け）窯出し後、作品の仕上げ（砥石、布ヤスリ、リユーター電動工具の使い方について）～本焼き（還元焼成）窯詰め						
第13回	本焼き窯出し（後片付け）窯出し後、作品の仕上げ。展示方法・計画の熟考→合評に向けて 展示台、額その他、木材、金具などの素材の調達と造作						
第14回	展示方法・展示計画の熟考→合評に向けて 制作を振り返り、制作過程記録の編集作業、記録集、作品集の制作						
第15回	合評 卒業制作展に向けて						

受講上の注意
遅刻欠席をしないこと。作業しやすい服装で受講すること。毎回、筆記用具、スケッチブックを持参のこと。

特記事項

科目名	専門実習Ⅲ			教員名	浜本 隆司		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	4317

授業目的と到達目標

・ 主題について考察を深める。・ 構想（アイデア・スケッチ・下絵）の充実。・ 油彩表現の技術的研究。

授業概要

①シュール画②抽象画③自由制作

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	担当教員は大きな絵画を中心にオブジェやインスタレーションなどのアート作品の制作を、40年以上続けています。個展や企画グループ展で関西、愛知、東京、そして海外での発表経験が多くありますので、アートの発表現場を通した目で、制作と発表の指導を行なっています。
主に作品評価(平常点と絵画制作へのスタンス)	70%	
出席率	30%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅲ			教員名	浜本 隆司		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	4317

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	シュール画のエスキース	キャンバスの調達をする。	
第2回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	キャンバスに制作する。	初期の下絵を作成する。	
第3回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第4回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第5回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第6回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	合評		
第7回	課題2	抽象画	作品	1 8 0 × 9 0 c m の板版	抽象画のエスキース	初期の下絵を作成する。	
第8回	課題2	抽象画	作品	1 8 0 × 9 0 c m の板版	彩色描画、表現技法の研究		
第9回	課題2	抽象画	作品	1 8 0 × 9 0 c m の板版	合評		
第10回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	自画像のエスキース、キャンバスの調達をする。		
第11回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	キャンバスに制作する。	初期の下絵を作成する。	
第12回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第13回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第14回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第15回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	合評		

受講上の注意

特記事項

科目名	専門実習Ⅲ			教員名	吉田 真紀子		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	3316

授業目的と到達目標

1 学年次の版画、専門基礎実習で学んだことを統合する。自分にとっての重要なテーマを決めそれを実現させる版種を選び制作する。同時に作品制作と発表における思考法を学ぶ。

授業概要

前期末の展示を視野に入れて制作する。展示スペースを考慮しつつ、制作可能な作品サイズ、点数を見いだし、計画的に進める。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	版画作家としての経験をもとに、作品作りに関する考え方や技術の指導、展覧会の仕方、ポートフォリオの作り方等の指導をします。
作品	90%	
受講姿勢	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅲ			教員名	吉田 真紀子		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	3316

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	※前期専門実習Ⅲは専門実習Ⅴと連携した内容で授業を行う。 ※ 下記（各回予定）は大まかな時期の概要説明でもあり、[作品] 製版・印刷の作業実習が含まれている。ガイダンス
第2回	年間の制作計画を立案する
第3回	前期末の展示を計画する
第4回	自らのテーマを文章にしたり、エスキースに描いたりする
第5回	緩やかな試みの時期として5月末あたりまで数種類の版を試してみる
第6回	作品制作と合評を通して自らの固有なメッセージ性を知る
第7回	テーマに沿った版種を決める
第8回	[作品]・原画制作
第9回	製版・印刷
第10回	[作品]・原画制作
第11回	製版・印刷
第12回	展示方法を吟味する。パネル張り・額装
第13回	この時期までの作品のポートフォリオを完了させる
第14回	作品搬入・合評
第15回	作品搬出・まとめ

受講上の注意
額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要であり、計画的な作業を求めます。

特記事項

科目名	専門実習Ⅲ			教員名	桜井 智裕		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	2-4 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	5201

授業目的と到達目標

金工の技法の鍛金（絞り、鍛造）の基本技術の習得。板材や棒材の加工を通して金属素材の特性を知り、作品の表現の幅を広げる。

授業概要

花器やはさみのような実用性を兼ねる作品を制作することで、機能美の概念も念頭に置きつつデザイン性と実用性のバランスを学習していきます。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	造形作家としての創作活動の経験を生かし、学生たちに作品制作を通して「モノ作り」の基礎や多種多様にわたる柔軟な発想力を身につけてもらえるよう指導して行きたいと思います。
作品の完成度	95%	
平常点	5%	
	%	
	%	
	%	

教科書

プリント配布

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅲ			教員名	桜井 智裕		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	2-4 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	5201

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	課題説明・花器（鍛金）のデザイン・アイデアチェック・作品制作
第2回	花器の作品制作（銅板、絞り）
第3回	花器 絞り
第4回	花器 絞り
第5回	花器 絞り・仕上げ打ち
第6回	花器 仕上げ打ち・着色・合評
第7回	課題説明・銅ハサミ（鍛造）・デザイン・アイデアチェック・作品制作
第8回	銅ハサミ制作（銅棒絞り）
第9回	銅ハサミ 銅棒絞り
第10回	銅ハサミ 銅棒絞り
第11回	銅ハサミ ヤスリ削り形成・磨き
第12回	銅ハサミ 磨き・着色・合評
第13回	自由課題・アイデアチェック・作品制作
第14回	作品制作
第15回	作品制作・合評

受講上の注意
必ず作業服に着替えて実習を受けてください。また、靴も動きやすく素足が露出していないもの、（ハイヒールやサンダル、ぞうりは不可です）雑巾又はタオル、筆記用具、作業用の服、工具、スケッチブックは毎回持参してください。

特記事項

科目名	専門実習Ⅲ			教員名	大原 千尋		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	4322

授業目的と到達目標

土という素材の特性を生かす為、陶芸特有の質感やマチエールによる装飾の展開を試みる。あらゆる技法や材料を体験し、各自が自分にあった装飾技法を模索する。

授業概要

1 年次に学習した材料演習の結果に基づいて、いろいろなタイルや小品を制作して、さまざまな装飾を試みる。土の装飾、化粧の装飾、釉薬の装飾などを体験し、やがて複合的に自在に使えるようにサポートする。

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	陶芸作家として個展や数々のグループ展などの出品の経験を元に指導します。
出席状況	50%	
課題提出状況	25%	
やる気	20%	
片付け（掃除）	5%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅲ			教員名	大原 千尋		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	4322

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ガイダンス（色土作りなど）
第2回	色土の装飾（中鉢に象嵌）鉢の成形
第3回	鉢の仕上げと装飾（象嵌）
第4回	色土の装飾(セラローラーを使った皿)皿の成形
第5回	皿の仕上げ
第6回	色化粧の装飾(長皿)土による型作りと成形
第7回	皿の仕上げと色化粧による装飾
第8回	施釉と焼成
第9回	土と釉薬による装飾(A4 サイズタイル)タイルの成形
第10回	タイルの装飾
第11回	自分で考える土や化粧などによる装飾(小皿5枚セット)小皿の成形
第12回	小皿の仕上げと装飾
第13回	施釉と焼成
第14回	タイル作品の額装
第15回	合評

受講上の注意
陶芸の作業は家ではできません。遅刻せず出席することが重要です。

特記事項

科目名	専門実習Ⅳ			教員名	浜本 隆司		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	4318

授業目的と到達目標

- ・ リアリティのある表現主題と表現方法を追求する。
- ・ 大画面

授業概要

- ・ 展示ホール作品展（夏期課題）
- ・ 卒業制作（作品以上の制作）

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	担当教員は大きな絵画を中心にオブジェやインスタレーションなどのアート作品の制作を、40年以上続けています。個展や企画グループ展で関西、愛知、東京、そして海外での発表経験が多くありますので、アートの発表現場を通した目で、制作と発表の指導を行なっています。
主に作品評価(平常点と絵画制作へのスタンス)	70%	
出席率	30%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅳ			教員名	浜本 隆司		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	4318

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	エスキース	キャンバスの調達をする。
第2回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	エスキース	制作計画
第3回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	キャンバスに制作する。	初期の下絵を作成する。
第4回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第5回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第6回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第7回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第8回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第9回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第10回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第11回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第12回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第13回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第14回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第15回	課題1	自由制作	作品	F100号	2点	作品プレゼンの計画、展示研究	

受講上の注意

特記事項

科目名	専門実習Ⅳ			教員名	吉田 真紀子		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	5324

授業目的と到達目標

2 学年前期までの版画、専門基礎実習、専門実習で学んだことを統合させ、作品制作と発表における思考法を学ぶ

授業概要

後期学年末の卒業制作を視野に入れて制作する。展示方法も考慮しつつ、現実的・制作可能な作品サイズ、点数などを計画する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	版画作家としての経験をもとに、作品づくりに関する考え方や技術の指導、展覧会の仕方、ポートフォリオの作り方等の指導をします。
作品	90%	
受講姿勢	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅳ			教員名	吉田 真紀子		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	5324

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ガイダンス
第2回	後期の制作計画を立案する
第3回	卒業制作の展示を計画する 自らのテーマを再認識する
第4回	作品制作と合評を通して自らの固有なメッセージ性を知る
第5回	緩やかな試みの時期として10月中旬まで数種類の版を試してみる
第6回	〔作品〕原画制作
第7回	製版・印刷
第8回	〔作品〕原画制作
第9回	製版・印刷
第10回	〔作品〕原画制作
第11回	製版・印刷
第12回	パネル張り・額装 異形パネル等、必要であれば木材加工にてパネル製作
第13回	展示方法を吟味する
第14回	この時期までの作品のポートフォリオを完了させる
第15回	作品採点・合評・まとめ

受講上の注意
額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要であり、計画的な作業を求めます。

特記事項
※後期専門実習Ⅳは専門実習Ⅱと連携した内容で授業を行う。※各回予定は大まかな時期の概要説明でもあり、〔作品〕製版・印刷の作業実習は遍在して含まれている。

科目名	専門実習Ⅳ			教員名	桜井 智裕		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	5318

授業目的と到達目標

これまでの学習から、各自テーマを設定し作品を制作する。

授業概要

各自のテーマをはっきりさせ、考え方を確立し、作品制作の視点から、彫金、鍛金、鋳金などより適切な技法を選び、制作を進めていく。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	造形作家としての創作活動の経験を生かし、学生たちに作品制作を通して「モノ作り」の基礎や多種多様にわたる柔軟な発想力を身につけてもらえるよう指導して行きたいと思います。
作品の評価点（完成度やアイデアの工夫など）	90%	
平常点(出席状況や取り組みの姿勢など)	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅳ			教員名	桜井 智裕		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	5318

授業計画（各回予定）		
授業内容		
第1回	卒業制作資料収集 2	完成予想図・モデル又は図面を描く
第2回	卒業制作資料収集 2	完成予想図・モデル又は図面を描く
第3回	卒業制作資料収集 2	完成予想図・モデル又は図面を描く
第4回	作品制作	
第5回	作品制作	
第6回	作品制作	
第7回	作品制作	
第8回	作品制作	
第9回	作品制作	
第10回	中間チェック	
第11回	作品制作	
第12回	作品制作	
第13回	作品制作	
第14回	作品制作	
第15回	合評	

受講上の注意
作業用の服装で来てください。雑巾又はタオル、工具類、スケッチブックと筆記用具は毎回、必ず持ってきてください。

特記事項

科目名	専門実習Ⅳ			教員名	大原 千尋		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	4323

授業目的と到達目標

年間で習得した表現を発展させ卒業制作に取り組む。

授業概要

卒業制作Ⅱと同時進行、同一内容「卒業制作」とする。各自のテーマにそってふさわしい表現ができるよう実験を試みる。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	陶芸作家として個展や数々のグループ展などの出品の経験を元に指導します。
出席状況	50%	
卒業制作の完成度	50%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅳ			教員名	大原 千尋		
期区分	後期	曜日	木曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	4323

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	卒業制作作品のプレゼンテーション（スケッチに基づき制作の計画を発表し、相談する）
第2回	試作を考える（何パターンか考える）
第3回	試作を作る
第4回	試作を作る
第5回	装飾や釉薬のテストをする
第6回	試作の施釉と焼成
第7回	本制作に取り掛かる
第8回	本制作の成形
第9回	本制作の成形
第10回	本制作の成形
第11回	本制作の装飾、仕上げ
第12回	作品の焼成方法と展示方法の検討
第13回	作品の焼成と展示方法の決定
第14回	作品の焼成
第15回	合評

受講上の注意
制作工程を考え計画的に作業すること

特記事項

科目名	専門実習Ⅴ			教員名	八田 香織		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	5322

授業目的と到達目標

各自が内に秘めている混沌としたある部分が、外との視覚的接触により物造りの欲求へと展開していく。その内と外との 通路を自ら導く為の手技や、思考の在り様についての指導。

授業概要

想像力、個性を打ち出す。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	行動美術協会会員（審査員）、日本美術家連盟会員としての作家活動並びにカルチャースクールでの指導経験を元に授業を行います。
総合評価	100%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅴ			教員名	八田 香織		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	5322

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	シュール画のエスキース	キャンバスの調達をする。	
第2回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	キャンバスに制作する。	初期の下絵を作成する。	
第3回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第4回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第5回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第6回	課題1	シュール画	作品	F 5 0 号	合評		
第7回	課題2	抽象画	作品	1 8 0 × 9 0 c m の板版	抽象画のエスキース	初期の下絵を作成する。	
第8回	課題2	抽象画	作品	1 8 0 × 9 0 c m の板版	彩色描画	表現技法の研究	
第9回	課題2	抽象画	作品	1 8 0 × 9 0 c m の板版	合評		
第10回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	自画像のエスキース	キャンバスの調達をする。	
第11回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	キャンバスに制作する。	初期の下絵を作成する。	
第12回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第13回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第14回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	彩色描画	表現技法の研究	
第15回	課題3	自画像	作品	F 1 0 0 号	合評		

受講上の注意

特記事項
表現力、自分の表現したいものは何か。感覚。技術的完成度や素材の扱い方など、および授業態度で成績を評価する。

科目名	専門実習Ⅴ			教員名	吉田 真紀子		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	1114

授業目的と到達目標

1 学年次の版画、専門基礎実習で学んだことを総合する。自分にとっての重要なテーマを決めそれを実現させる版種を選び制作する。同時に作品制作と発表における思考法を学ぶ。

授業概要

前期末の展示を視野に入れて制作する。展示スペースを考慮しつつ、制作可能な作品サイズ、点数を見いだし、計画的に進める。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	美術家として個展、版画展などの実務経験を基に版画を「深く柔軟に思考・制作」する姿勢を尊重し指導します。
作品	90%	
受講姿勢	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

無し

参考書・参考文献

プリント、参考資料など

参考 URL

科目名	専門実習Ⅴ			教員名	吉田 真紀子		
期区分	前期	曜日	木曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	1114

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ガイダンス
第2回	年間の制作計画を立案する
第3回	前期末の展示を計画する
第4回	自らのテーマを文章にしたり、エスキースを描いたりする。
第5回	緩やかな、試みの時期として5月末あたりまで数種類の版をためしてみる。
第6回	作品制作と合評を通して自らの固有なメッセージ性を知る。
第7回	テーマに沿った版種を決める
第8回	[作品]・原画制作
第9回	製版・印刷
第10回	[作品]・原画制作
第11回	製版・印刷
第12回	展示方法を吟味する。パネル張り・額装・
第13回	この時期までの作品のポートフォリオを完了させる
第14回	作品搬入・合評
第15回	作品搬出・まとめ

受講上の注意
額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要であり。計画的な作業を求めます。

特記事項
※前期専門実習Ⅲと連携した内容で授業を行う。※各回予定は大まかな時期の概要説明でもあり、[作品]製版・印刷の作業実習が含まれている。

科目名	専門実習Ⅴ			教員名	桜井 智裕		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	6315

授業目的と到達目標

金属加工のいろいろな技法を知り、修得して表現の幅を広げるとともに、より新たな表現方法を模索し作品制作に活かす。卒業してからの「物作り」としての、基本的な知識と金属で形を作ってゆくプロセスを学ぶとともに応用力も養う。

授業概要

1.「時計」(切りバメ象嵌)による模様の表現 「時計」の部分は規制のムーブメントを使ってもらいます 2.「あかり」照明器具制作又はその他の発想による作品制作 「あかり」と言うキーワードから発想を広げて 作品を考えてもらいます 基本的には自由課題となります

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	造形作家としての創作活動の経験を生かし、学生たちに作品制作を通して「モノ作り」の基礎や多種多様にわたる柔軟な発想力を身につけてもらえるよう指導して行きたいと思っています。
作品（完成度や表現の工夫など）	95%	
平常点（出席状況や取り組みの姿勢など）	5%	
	%	
	%	
	%	

教科書

プリント配布

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅴ			教員名	桜井 智裕		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	6315

授業計画（各回予定）					
授業内容					
第1回	時計（象嵌）	象嵌の技法を用いた作品制作	洋白、真鍮、銅	課題説明	アイデアチェック
第2回	作品制作	象嵌部分の制作	糸鋸で切り出し、削り微調整		
第3回	作品制作	象嵌部分の制作	はめ込み、ロウ付け		
第4回	作品制作	象嵌部分の制作	削り、磨き		
第5回	作品制作	本体部分の制作	本体の加工とその他の部品製作		
第6回	作品制作	その他の部品の製作			
第7回	作品制作	組み立て仕上げ	合評	次の課題の説明	
第8回	「あかり」（技法は自由）		蜀台や照明器具など「あかり」にまつわる作品制作		アイデアチェック、作品制作
第9回	作品制作	技法が自由なので個人個人で制作工程が異なります			
第10回	作品制作	例、本体部分制作			
第11回	作品制作	例、本体部分制作			
第12回	作品制作	例、パーツ部分制作			
第13回	作品制作	例、パーツ部分制作			
第14回	作品制作	例、本体と部品の組み立て、ロウ付け			
第15回	作品制作	仕上げ 合評			

受講上の注意
実習なので作業用の服装で来てください。ハイヒールやサンダルは不可です。動きやすい靴を履いてきてください。雑巾又はタオル、工具類、スケッチブックと筆記用具は毎回、必ず持ってきてください。

特記事項

科目名	専門実習Ⅴ			教員名	大原 千尋		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	5326

授業目的と到達目標

一年次で習得された基礎をもとに、より自由な発想でイメージ表現できるように演習する。

授業概要

主に手びねり、たたらの技法を用いてあらゆる表現の可能性を探る。必要に応じて、月曜日の「ろくろ」課題の削りや仕上げの時間とする。 窯づめ、焼成の実習に も取り組む。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	陶芸作家として個展や数々のグループ展などの出品の経験を元に指導します。
出席状況	50%	
課題提出状況	25%	
やる気	20%	
片付け（掃除）	5%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習Ⅴ			教員名	大原 千尋		
期区分	前期	曜日	金曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	5326

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	手びねりの展開 「壺を作る」 鑑賞（図書室利用）スケッチ（形を決める）
第2回	手びねりで壺を作る
第3回	壺の文様を考える スケッチから文様を作る
第4回	絵付け
第5回	ろくろの展開(ティーポットか急須) パーツ作り
第6回	仕上げ（パーツの接合など）
第7回	施釉と焼成
第8回	第5回のティーポット（急須）に合うティーセットを作る
第9回	第5回のティーポット（急須）に合うティーセットを作る
第10回	ティーカップ、コーヒーカップ、ゆのみ
第11回	ティーカップ、コーヒーカップ、ゆのみ
第12回	ティーカップ、コーヒーカップ、ゆのみ
第13回	ソーサー（受け皿）作り
第14回	施釉と焼成
第15回	合評

受講上の注意
作業しやすい服装で受講すること。遅刻欠席をしないこと。

特記事項

科目名	専門実習VI			教員名	八田 香織		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	5323

授業目的と到達目標

想像力、個性を打ち出す。

授業概要

卒業制作作品の指導

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	行動美術協会会員（審査員）、日本美術家連盟会員としての作家活動並びにカルチャースクールでの指導経験を元に授業を行います。
総合評価	100%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習VI			教員名	八田 香織		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	5323

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	エスキース	キャンバスの調達をする。
第2回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	エスキース	制作計画
第3回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	キャンバス	に制作する。初期の下絵を作成する。
第4回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第5回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第6回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第7回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第8回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第9回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第10回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第11回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第12回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第13回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法	の研究
第14回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	作品プレゼン	の計画、展示研究
第15回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	作品選考、合評	

受講上の注意

特記事項
表現力、自分の表現したいものは何か。感覚。技術的完成度や素材の扱い方など、および授業態度で成績を評価する。

科目名	専門実習VI			教員名	大船 光洋		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	1115

授業目的と到達目標

2 学年前期までの版画、専門基礎実習、専門実習で学んだことを総合させ、作品制作と発表における思考法を学ぶ。

授業概要

後期学期末の卒業制作を視野に入れ、展示方法も考察しつつ、現実的制作品可能な作品サイズ、点数などを計画する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	版画作家として、個展やグループ展、アートフェア等での作品発表の経験を基に、版での作品制作の楽しさを伝えます。
受講姿勢	10%	
作品評価	90%	
	%	
	%	
	%	

教科書

無し

参考書・参考文献

プリント、参考資料など

参考 URL

科目名	専門実習VI			教員名	大船 光洋		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	3-5 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	1115

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	ガイダンス
第2回	後期の制作計画を立案する
第3回	卒業制作の展示を計画する自らのテーマを再認識する。
第4回	作品制作と合評を通して自らの固有なメッセージ性を知る。
第5回	緩やかな、試みの時期として10月中旬まで数種類の版をためしてみる。
第6回	[作品]・原画制作
第7回	製版・印刷
第8回	[作品]・原画制作
第9回	製版・印刷
第10回	[作品]・原画制作
第11回	製版・印刷
第12回	パネル張り・額装異形パネル等、必要とされれば木部材加工にてパネル製作
第13回	展示方法を吟味する。
第14回	この時期までの作品のポートフォリオを完了させる
第15回	作品採点・合評・まとめ

受講上の注意
額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要であり。計画的な作業を求めます。

特記事項
※後期専門実習ⅡとⅣはこの実習と連携した内容で授業を行う。※各回予定は大まかな時期の概要説明でもあり、[作品]製版・印刷の作業実習が含まれている。

科目名	専門実習VI			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	1204

授業目的と到達目標

これまでに学んできた技術や知識をもとに計画し効率よく作品を作り上げていきます。また、臨機応変に物事に対応する柔軟な判断力も磨いていきます。

授業概要

個々が想定したテーマに基づき、これまでに学んだ金属工芸の知識・技法を制作物に反映させ集大成となる作品を制作する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	ジュエリー作家として貴金属製作や宝石に関する知識と、金属工芸以外にも樹脂、粘土、革、布など様々な素材を使ってきた経験から素材や技法の選択など幅広く指導します。
完成度・デザイン	30%	
作品提出	20%	
授業態度	10%	
出席率	40%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習VI			教員名	加藤 涼子		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	1204

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	卒業制作の為の企画 テーマを考え・表現方法を検討・資料チェック
第2回	デザイン画・図面作成・完成予想図・実寸図面の作成・サンプル作り
第3回	デザインに基づいた作品の制作
第4回	デザインに基づいた作品の制作
第5回	デザインに基づいた作品の制作
第6回	デザインに基づいた作品の制作
第7回	デザインに基づいた作品の制作 中間チェックと検証・変更や追加を検討
第8回	デザインに基づいた作品の制作
第9回	デザインに基づいた作品の制作
第10回	デザインに基づいた作品の制作
第11回	デザインに基づいた作品の制作
第12回	デザインに基づいた作品の制作
第13回	デザインに基づいた作品の制作
第14回	展示環境の作成
第15回	展示環境の作成・合評

受講上の注意
作業しやすい服装で受講してください。エプロン着用。

特記事項

科目名	専門実習VI			教員名	秋永 邦洋		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	3122

授業目的と到達目標

既成概念にとらわれない自由な思考にもとづく新しい陶表現を追求する。表現に適した材料の選択を体得する。各自のテーマに沿った陶芸表現を追求する。卒業制作作品の制作。

授業概要

専門実習VIは卒業制作Ⅰと同一内容「卒業制作」とする。10月から11月にテストピースの焼成を多くし、素材、技法に関する基本的なことを復習し、新しい表現につなげる実験をおこなう。就職、進学のための作品集の制作も同時進行させる。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。
受講姿勢	50%	
課題の評価	50%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	専門実習VI			教員名	秋永 邦洋		
期区分	後期	曜日	水曜日	時限	1-3 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	3122

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	卒業制作のアイデアスケッチ
第2回	アイデアスケッチから土の選択、釉薬の決定、焼成方法の決定
第3回	マケット制作
第4回	土作り
第5回	成形
第6回	成形
第7回	成形
第8回	成形
第9回	装飾
第10回	装飾
第11回	素焼き
第12回	加飾、釉薬掛け
第13回	本焼き
第14回	展示の準備、展示台制作
第15回	合評

受講上の注意
遅刻欠席しないこと。作業しやすい服装で受講すること。

特記事項

科目名	卒業制作 I			教員名	森 慎司		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	3117

授業目的と到達目標

絵画制作における表現の可能性を追求しつつ、より豊かな描画表現を探り、自己表現の可能性を高め、多種多様の表現能力を得る。

授業概要

テーマごとの課題制作 多彩なテクスチャやタッチ、線描、発色などの効果を探る

成績評価方法・基準		教員実務経験
種別	割合	主体美術協会に会員として、油彩、テンペラ、テンペラ油彩混合技法、アクリルによる作品を毎年発表し、ミクストメディア、混合技法による平面絵画制作を続けている。
課題作品の提出	85%	
平素の授業態度と学習意欲など	15%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	卒業制作 I			教員名	森 慎司		
期区分	前期	曜日	水曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	3117

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第 1 回	油彩画の基本技術と色彩効果について（講義）
第 2 回	テクスチャと下地制作 1
第 3 回	テクスチャと下地制作 2
第 4 回	テクスチャと下地制作 3
第 5 回	課題 1 描画技法を用いた作品 1
第 6 回	課題 1 描画技法を用いた作品 2
第 7 回	課題 1 描画技法を用いた作品 3
第 8 回	課題 1 描画技法を用いた作品 4
第 9 回	課題 2 複合効果を用いた作品 1
第 10 回	課題 2 複合効果を用いた作品 2
第 11 回	課題 2 複合効果を用いた作品 3
第 12 回	課題 2 複合効果を用いた作品 4
第 13 回	ポートフォリオの制作（A4 ファイル）作品撮影等
第 14 回	ポートフォリオの制作（A4 ファイル）ファイルデザインの計画
第 15 回	ポートフォリオの制作（A4 ファイル）ファイルの制作

受講上の注意
アクリル系の材料を用い、削るなどの作業も行うので服装に留意すること

特記事項

科目名	卒業制作 I			教員名	池田 高広		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	4314

授業目的と到達目標

1 学年次の版画、専門基礎実習で学んだことを総合させ、作品制作と発表における思考法を学ぶ。搬入搬出など作品の取り扱いを知る

授業概要

前期ではあるが、後期学期末の卒業制作を視野に入れて考える。展示方法も考察しつつ、制作可能な作品サイズ、点数などを計画実習する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	版画作家としての経験をもとに、作品作りに関する考え方や技術の指導、額装の方法や展覧会の展示方法、案内状の作り方などを指導します。
作品	90%	
受講姿勢	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

無し。

参考書・参考文献

プリント、参考資料など

参考 URL

科目名	卒業制作 I			教員名	池田 高広		
期区分	前期	曜日	月曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	4314

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	年間の制作計画を立案する。卒業制作 I では前期末の展示を計画する。作品制作作業
第2回	作品制作（製販、印刷作業）
第3回	作品制作（製販、印刷作業）
第4回	自らの固有なメッセージ性を知る。作品制作（製販、印刷作業）
第5回	作品制作（製販、印刷作業）
第6回	作品制作（製販、印刷作業）
第7回	作品制作（製販、印刷作業）
第8回	展示方法を吟味する。作品制作（製販、印刷作業）
第9回	作品制作（製販、印刷作業）
第10回	作品制作（製販、印刷作業）
第11回	作品制作（製販、印刷作業）
第12回	夏期休暇前に学内ギャラリースペースを利用し展示する。展示計画を立てる。作品制作作業
第13回	展示のための準備、額装、キャプション作りなど。
第14回	搬入、展示
第15回	搬出・合評

受講上の注意
額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要である。計画的な作業を求めます。

特記事項

科目名	卒業制作 I			教員名	八木 牧子		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	2113

授業目的と到達目標

作品制作における考え方や手順及び適切な技法、素材の選び方を学ぶ。

授業概要

各自テーマを設定し資料を収集し、適切な材料、技法を探し、作品制作を行う。卒業制作に使用できる様々な石留め技法を学びます

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	ジュエリー作家の元で修業後、読売新聞社の彫金教室や大阪市立クラフトパークなどで Metal Work の技術を指導する現役 彫金作家が指導します。
作品完成度	50%	
課題への取り組み・理解度	40%	
出席状況	10%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

<https://youtu.be/utpLLqJSKnk> URL)<https://youtu.be/wm6PyFZkW5M>
<https://youtu.be/9-nz4LKAT34>

科目名	卒業制作 I			教員名	八木 牧子		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	2113

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	「カット石を使ったパイプセッティング」 デザイン制作
第2回	ジュエリー制作
第3回	ジュエリー制作
第4回	石のセッティング
第5回	「七宝焼をコラボレーションさせたセッティング」 デザイン制作
第6回	ジュエリー制作
第7回	ジュエリー制作
第8回	ジュエリー制作
第9回	七宝焼セッティング
第10回	「カット石を使ったバスケットセッティング」 デザイン制作
第11回	ジュエリー制作
第12回	ジュエリー制作
第13回	ジュエリー制作
第14回	ジュエリー制作
第15回	石のセッティング

受講上の注意
後期の卒業制作に向けての Pre(事前)授業です。アイデアを考える、石留めの技法を学ぶ、制作する などそれぞれの時間配分を考え経験し卒業制作の練習をして欲しいです。

特記事項

科目名	卒業制作 I			教員名	秋永 邦洋		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	2115

授業目的と到達目標

1～2 年で習得した表現方法を発展させ、既成概念にとらわれない自由な発想にもとづいた卒業制作に取り組む。表現に適した材料の選択を体得する。各自のテーマに沿った陶芸表現を追求する。

授業概要

制作過程で生じる様々な問題点について個々に対処し、より高度な表現をめざした卒業制作に向かう。できれば就職、進学のための作品集の制作も同時進行させる。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	陶芸に関して、陶芸作家の経験を元に指導します。
受講姿勢	50%	
卒業制作の評価	50%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	卒業制作 I			教員名	秋永 邦洋		
期区分	前期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	2115

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	卒業制作のアイデアスケッチ
第2回	アイデアスケッチから土の選択、釉薬の決定、焼成方法の決定
第3回	マケット制作
第4回	土作り
第5回	成形
第6回	成形
第7回	成形
第8回	成形
第9回	装飾
第10回	装飾
第11回	素焼き
第12回	加飾、釉薬掛け
第13回	本焼き
第14回	展示の準備、展示台制作
第15回	合評

受講上の注意
遅刻欠席しないこと。作業しやすい服装で受講すること。

特記事項

科目名	卒業制作Ⅱ			教員名	八田 香織		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	3-4 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	2326

授業目的と到達目標

絵画制作における表現の可能性を追求しつつ、より豊かな描画力を修得する。オリジナルな画風を構築し、独自のテーマを明確にする。コンセプトから制作へ、展示作品としてグローバルなプレゼンテーションの一貫性を体得する。

授業概要

絵画制作の授業として行なう。各自、独自の制作プログラムを作成し、絵画制作における表現の可能性を追求する。オリジナルな作品（大画面）創りのコンセプトを重視しながら制作計画に添って行なう。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	行動美術協会会員（審査員）、日本美術家連盟会員としての作家活動並びにカルチャースクールでの指導経験を元に授業を行います。
作品の完成度を重視する。	100%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	卒業制作Ⅱ			教員名	八田 香織		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	3-4 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(絵画)			年次	2	履修コード	2326

授業計画（各回予定）							
授業内容							
第1回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	エスキース	キャンバスの調達をする。
第2回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	エスキース	制作計画
第3回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	キャンバスに制作する。	初期の下絵を作成する。
第4回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第5回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第6回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第7回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第8回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第9回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第10回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第11回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第12回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第13回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第14回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	彩色描画、表現技法の研究	
第15回	課題1	自由制作画	作品	F100号	2点	作品プレゼンの計画	展示研究

受講上の注意

特記事項

科目名	卒業制作Ⅱ			教員名	吉田 真紀子		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	3-4 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	3322

授業目的と到達目標

2 学年前期までの版画、専門基礎実習、専門実習で学んだことを総合させ、作品制作と発表における思考法を学ぶ。

授業概要

後期学期末の卒業制作を視野に入れる。展示方法も考察しつつ、現実的に制作可能な作品サイズ、点数などを計画する。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	版画作家としての活動経験をもとに、作品作りに関する考え方や技術の指導、額装の方法や展覧会の展示方法を指導します。
作品	90%	
受講姿勢	10%	
	%	
	%	
	%	

教科書

無し

参考書・参考文献

プリント、参考資料など

参考 URL

科目名	卒業制作Ⅱ			教員名	吉田 真紀子		
期区分	後期	曜日	月曜日	時限	3-4 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(版画)			年次	2	履修コード	3322

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	前期までの課題作品を検討する。テーマ・コンセプトの明確化。計画表提出。作品制作作業
第2回	作品制作（製販、印刷作業）
第3回	作品制作（製販、印刷作業）
第4回	テーマに適した版種の決定。作品の形態について考える。現代美術の作品形態の多様性について学ぶ。展示作品のサイズ制作材料を吟味する。作品制作（製販、印刷作業）
第5回	作品制作（製販、印刷作業）
第6回	作品制作（製販、印刷作業）
第7回	年内完成をめどとして制作期間のプログラムシートを作成。これが実現可能か検討する。
第8回	作品制作（製販、印刷作業）
第9回	作品制作（製販、印刷作業）
第10回	作品制作（製販、印刷作業）
第11回	作品制作及び額装パネル張り等は冬季休暇前に完了させる。作品制作（製販、印刷作業）
第12回	作品制作（製販、印刷作業）
第13回	作品制作（製販、印刷作業）展示のための準備
第14回	額装し架設展示をして採点、合評。
第15回	2月中旬の本展示にそなえる。

受講上の注意
額装や展示のことまで含め、第三者に見せることを意識することが重要であり、計画的な作業を求めます。展示・搬入搬出には必ず参加すること。

特記事項

科目名	卒業制作Ⅱ			教員名	八木 牧子		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	2114

授業目的と到達目標

これまでの学習から、各自テーマを設定し作品を制作する。

授業概要

各自のテーマをはっきりさせ、考え方を確立し、作品制作の視点から、彫金、鍛金、ワックス等より適切な技法を選び、制作を進めてゆく。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	ジュエリー作家の元で修行後、読売新聞社の彫金教室や大阪市立クラフトパークなどで Metal Work の技術を指導する現役 彫金作家が指導します。
作品の完成度	60%	
課題への取り組み態度	30%	
出席状況	10%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	卒業制作Ⅱ			教員名	八木 牧子		
期区分	後期	曜日	火曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(アクセサリー)			年次	2	履修コード	2114

授業計画（各回予定）		
授業内容		
第1回	卒業制作資料収集	完成予想図・モデル又は図面を描く
第2回	卒業制作資料収集	完成予想図・モデル又は図面を描く
第3回	卒業制作資料収集	完成予想図・モデル又は図面を描く
第4回	作品制作	
第5回	作品制作	
第6回	作品制作	
第7回	作品制作	
第8回	作品制作	
第9回	作品制作	
第10回	中間チェック	
第11回	作品制作	
第12回	作品制作	
第13回	作品制作	
第14回	作品制作	
第15回	合評	

受講上の注意
作業用の服装で来てください。雑巾又はタオル、工具類、スケッチブックと筆記用具は毎回、必ず持ってきてください。

特記事項

科目名	卒業制作Ⅱ			教員名	大原 千尋		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	5116

授業目的と到達目標

二年次後半の多くを費やす「卒業制作」に向けて、各自のコンセプトやテーマの決定から実際の制作に取りかかる準備と試作＋本作品の制作。

授業概要

9月後半、10月～11月に試作やテストピースを重ね、素材・技法に関する基本的なことを復習し、新しい表現につながる実験を行なう。就職・進学のための作品集の制作も同時進行させる。

成績評価方法・基準

教員実務経験

種別	割合	陶芸作家として個展や数々のグループ展などの出品の経験を元に指導します。
出席状況	50%	
卒業制作の完成度	50%	
	%	
	%	
	%	

教科書

参考書・参考文献

参考 URL

科目名	卒業制作Ⅱ			教員名	大原 千尋		
期区分	後期	曜日	金曜日	時限	1-2 時限	形態	実習
コース	美術・工芸(陶芸)			年次	2	履修コード	5116

授業計画（各回予定）	
授業内容	
第1回	卒業制作作品のプレゼンテーション（スケッチに基づき制作の計画を発表し、相談する）
第2回	試作を考える（何パターンか考える）
第3回	試作を作る
第4回	試作を作る
第5回	装飾や釉薬のテストをする
第6回	試作の施釉と焼成
第7回	本制作に取り掛かる
第8回	本制作の成形
第9回	本制作の成形
第10回	本制作の成形
第11回	本制作の装飾、仕上げ
第12回	作品の焼成方法と展示方法の検討
第13回	作品の焼成と展示方法の決定
第14回	作品の焼成
第15回	合評

受講上の注意
制作工程を考え計画的に作業すること

特記事項